

麦の生産をめぐる事情

令和 8 年 5 月
農 林 水 産 省

食料・農業・農村基本計画

- 令和7年4月に閣議決定された食料・農業・農村基本計画において、令和12年度までに国産麦の生産量を増加させるKPIや、新たに保管数量等のKPIを設定。
- 国産麦への切替えや国産の更なる利用拡大を促進しつつ、大区画化やスマート農業による適期作業の推進、排水対策等の営農技術の導入、多収品種等の開発・導入等を通じて、生産性の向上を図る。また、実需のニーズを踏まえた品種転換や農地の有効活用を進め、産地形成を図る。
- 令和12年度における麦のKPI

| 品目 | KPI | 基準年 (R5) | → | 目標年 (R12) | |
|-------------|-----------------|-------------|--------|--------------|--------------|
| 小麦 | 作付面積 (万ha) | 23 | → | 26 | |
| | 単収 (kg/10a) | 田 | 397 | → | 489 |
| | | 畑 | 569 | → | 605 |
| | | 全国 | 472 | → | 537 |
| | 生産量 (万t) | 109 | → | 137 | |
| | 国産切替量 (万t) | 0 | → | 27.5 | |
| | 保管数量 (万t) | 2.9 | → | 9.0 | |
| | 生産費 (円/60kg) | 田 | 10,400 | → | 9,300 |
| 畑 | | 7,700 | → | 6,200 | |
| 大麦・ はだか麦 | 作付面積 (万ha) | 6.4 | → | 6.8 | |
| | 単収 (kg/10a) | 363 | → | 382 | |
| | 生産量 (万t) | 23 | → | 26 | |

資料：食料・農業・農村基本計画（令和7年4月閣議決定）をもとに作成

生産

・排水対策等の営農技術の導入



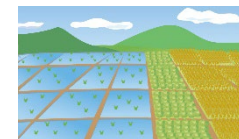
・スマート農業技術等を活用した省力的な栽培体系による適期作業の推進



・実需のニーズを踏まえた品種転換、多収品種等の開発・導入



・大区画化や汎用化・畑地化等の基盤整備



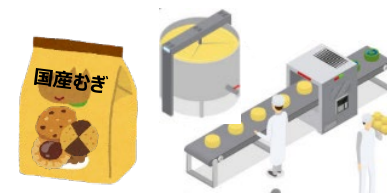
流通

・国産麦の安定供給に向けたストックセンターの整備や調整保管への支援







消費

・国産麦の機能性を活かした新商品の開発やPRなどへの支援



麦の種類・用途

○ 我が国では、小麦、二条大麦、六条大麦、はだか麦の4麦を生産している。

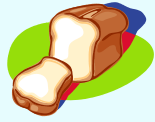



| 麦種 | 用途 | 国内生産量 (R7年産) |
|--|----------------------------------|--|
| <p>小麦</p> <ul style="list-style-type: none"> 小麦には、グルテニンとグリアジンと呼ばれるたんぱく質が含まれており、これらが水を含むことでグルテンが形成される。このグルテンは、粘り・弾力があるためパンや麺に適している。 用途により求められるたんぱく含有量が異なる。  <p>小麦は小穂が交互になる</p> | <p>うどん パン 中華麺 菓子</p> | <p>103.1万トン</p> <p>北海道(65%) 福岡県(6%) 佐賀県(4%)</p> |
| <p>大麦</p> <p>二条大麦 6列のうち2列に実がなる。 大粒大麦とも呼ばれる。</p>  <p>【上から穂を見た図】 2列だけ実がなる 実がならない</p> <p>六条大麦 6列(条)のすべてに実がなる。 小粒大麦とも呼ばれる。</p>  <p>【上から穂を見た図】 6列すべてに実がなる</p> <p>はだか麦 二条大麦、六条大麦と外見はほぼ同じ。</p>  <p>現在生産されているはだか麦は六条の品種が多い。</p> | <p>ビール 焼酎</p> | <p>15.3万トン</p> <p>佐賀県(29%) 栃木県(20%) 福岡県(18%)</p> |
| <p>六条大麦</p> <p>大麦は二条と六条に分けられる。さらに、皮がはがれやすいものを「はだか麦」と呼んでいる。</p> <p>大麦は精麦して押麦にするほか、ビールの醸造原料にも用いられている。</p> <p>グルテンを含まない。</p> | <p>押麦 麦茶</p> | <p>5.9万トン</p> <p>福井県(28%) 富山県(17%) 滋賀県(11%)</p> |
| <p>はだか麦</p> <p>二条大麦、六条大麦と外見はほぼ同じ。</p> <p>現在生産されているはだか麦は六条の品種が多い。</p> | <p>麦みそ</p> | <p>1.7万トン</p> <p>愛媛県(35%) 大分県(17%) 香川県(14%)</p> |

注：国内生産量は作物統計（令和7年産）

小麦の種類・用途

- 原料として使用される小麦の種類は、小麦粉の種類・用途に応じて異なっている。
- 小麦粉の種類は、たんぱく質の含有量によって、強力粉（パン用）、準強力粉（中華麺用）、中力粉（うどん等日本麺用）、薄力粉（菓子用）に分類される。

| 外国産小麦の銘柄 | カナダ産ウェスタン・レッド・スプリング (1CW) | アメリカ産ダーク・ノーザン・スプリング (DNS) | アメリカ産ハード・レッド・ウィンター (HRW) | オーストラリア産スタンダード・ホワイト (ASW) | アメリカ産ウェスタン・ホワイト (WW) | |
|----------|---------------------------|---------------------------|--------------------------|---------------------------|----------------------|-------|
| 輸入数量 | 453万トン | 150万トン | 71万トン | 78万トン | 69万トン | 56万トン |

| 小麦粉の種類 | 強力粉 | 準強力粉 | 中力粉 | 薄力粉 |
|-----------|--|--|---|--|
| 主な用途 | 食パン  | 中華麺 ギョウザの皮  | うどん、即席麺 ビスケット、和菓子  | カステラ、ケーキ 和菓子、天ぷら粉 ビスケット  |
| たんぱく質の含有量 | 11.5~13.0% | 10.5~12.5% | 7.5~10.5% | 6.5~9.0% |

| 国内産小麦の種類 | パン用品種 | 中華麺用品種 | 日本麺用品種 | |
|--------------|---|--------------------------|---------------------|----------------|
| 国内産小麦流通量 | 94万トン | 19.2万トン(20.4%) | 1.2万トン(1.3%) | 74.0万トン(78.4%) |
| (参考) R6年度流通量 | 北海道産ゆめちから (11.2万トン) 北海道産春よ恋 (4.4万トン) | 福岡県産ちくしW2号【ラー麦】 (0.7万トン) | 北海道産きたほなみ (52.7万トン) | |

資料：「麦をめぐる事情について（小麦）」農林水産省貿易業務課

注1：輸入数量及び国内小麦流通量は、過去5年（R2～R6年度）の平均数量である。

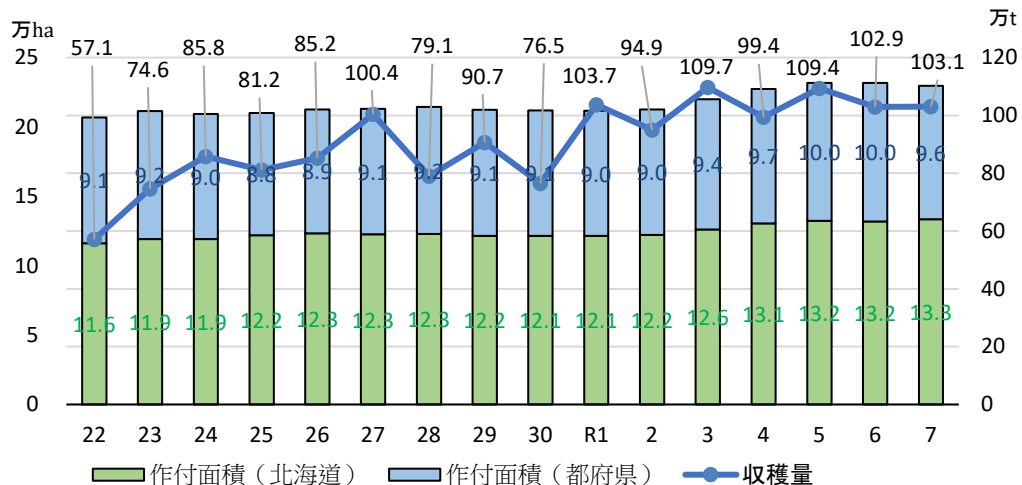
注2：輸入数量は、5銘柄以外の銘柄（デュラム小麦等）28万トンを含む。

注3：国内産小麦流通量は、集荷団体からの聞き取り数量である。

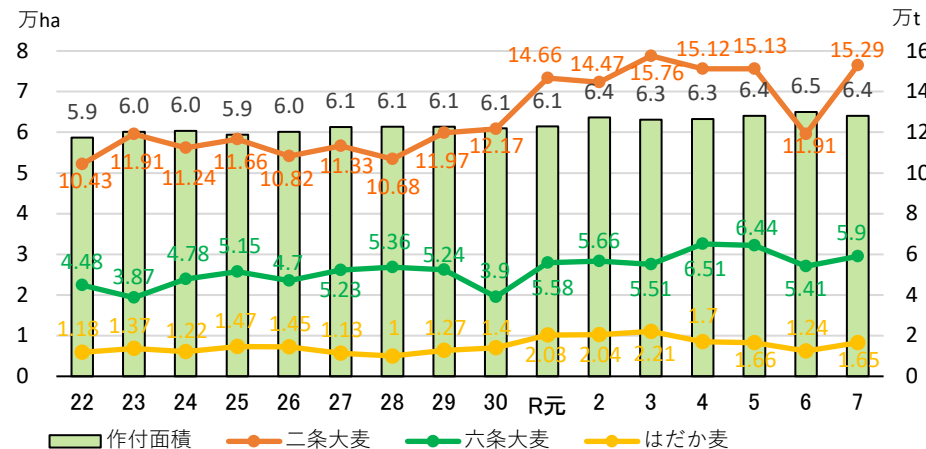
麦の作付面積・生産量

- 小麦の作付面積、収穫量ともに増加傾向。令和7年においては**103.1万トン**となっている。
- 大麦の作付面積はほぼ横ばいで推移しており、収穫量は天候不順となった令和6年産を除き**約23万トン**で推移している。
- 単収は収穫期の降雨等の天候の影響を受けやすく、年次変動が大きい。

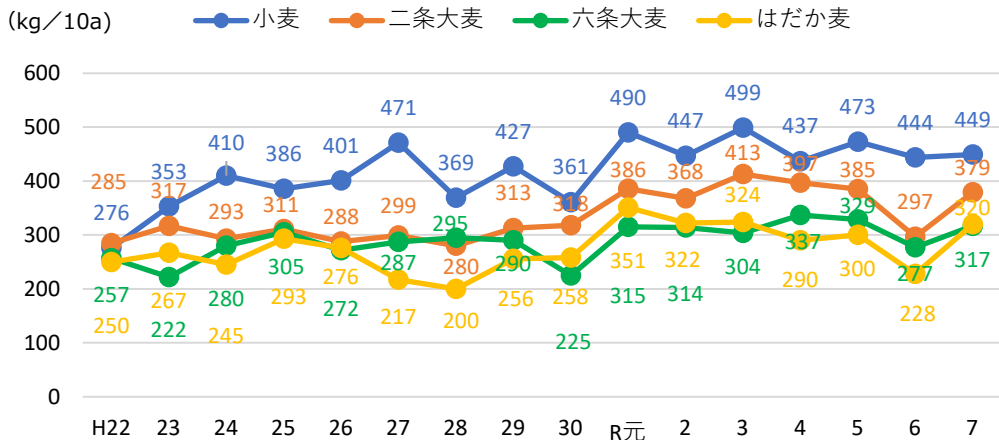
【小麦】



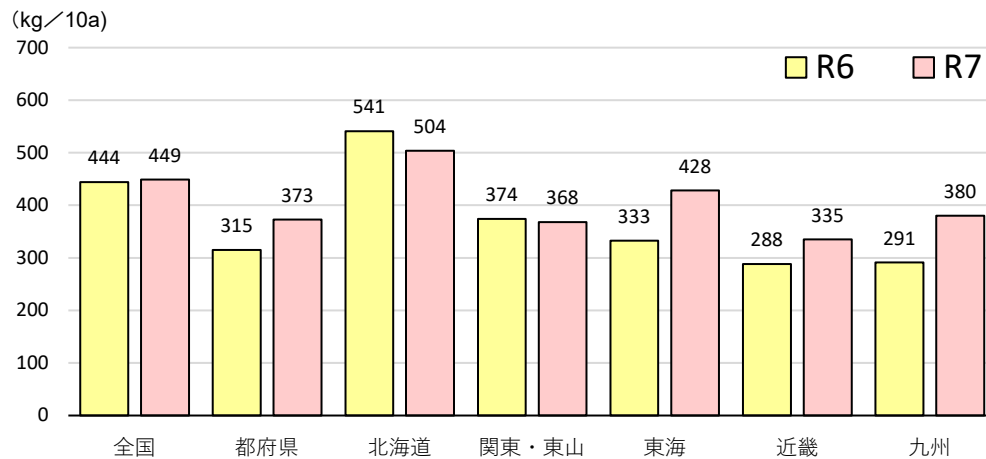
【大麦・はだか麦】



○ 小麦、大麦・はだか麦の単収の推移



○ 主な地域の小麦の単収（R6、R7年産）



麦の生産者数・作付規模

- 麦の作付経営体数は、直近10年間で約3割減少し、小麦は3.1万経営体、大麦では1.3万経営体となった。
- 一方で、**1経営体当たりの作付面積は、小麦で1.5倍、大麦で1.6倍に拡大している。**

○ 麦の作付経営体数の推移

(単位：千経営体)

| | H12 | H17 | H22 | H27 | R2 |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 販売目的の農業経営体数 | 2,337 | 1,963 | 1,631 | 1,330 | 1,028 |
| うち小麦作付経営体数 | 91 | 86 | 46 | 38 | 31 |
| うち大麦作付経営体数 | 40 | 35 | 19 | 15 | 13 |

資料：農林業センサス 販売目的の麦の作物別作付経営体数と作付面積

注：平成17年までは販売農家

○ H22年とR2年の作付経営体数、作付面積の比較

| | | H22 | H27 | R2 | R2/H22 |
|----|----------------|---------|---------|---------|-------------|
| 小麦 | 作付経営体数(経営体) | 46,202 | 37,694 | 30,976 | 67% |
| | 作付面積 (ha) | 202,844 | 207,149 | 208,664 | 103% |
| | 1経営体当たり面積 (ha) | 4.4 | 5.5 | 6.7 | 153% |
| 大麦 | 作付経営体数(経営体) | 19,372 | 15,192 | 13,275 | 69% |
| | 作付面積 (ha) | 56,763 | 55,925 | 60,974 | 107% |
| | 1経営体当たり面積 (ha) | 2.9 | 3.7 | 4.6 | 157% |

資料：農林業センサス 販売目的の麦の作物別作付経営体と作付面積

○ 地域別小麦作付経営体数と作付面積 (R2)

| | 作付経営体数 (経営体) | | 作付面積 (ha) | | 一経営体 当たり面積 (ha) |
|-------|-----------------|------|-----------|------|-----------------------|
| | 体数 | 割合 | 面積 | 割合 | |
| 北海道 | 12,261 | 40% | 119,179 | 57% | 9.7 |
| 都府県 | 18,715 | 60% | 89,485 | 43% | 4.8 |
| 東北 | 1,624 | 5% | 6,628 | 3% | 4.1 |
| 関東・東山 | 5,402 | 17% | 20,703 | 10% | 3.8 |
| 北陸 | 228 | 1% | 508 | 0% | 2.2 |
| 東海 | 2,517 | 8% | 15,303 | 7% | 6.1 |
| 近畿 | 2,174 | 7% | 8,563 | 4% | 3.9 |
| 中国 | 714 | 2% | 2,418 | 1% | 3.4 |
| 四国 | 610 | 2% | 2,407 | 1% | 3.9 |
| 九州 | 5,437 | 18% | 32,941 | 16% | 6.1 |
| 沖縄 | 9 | 0% | 14 | 0% | 1.6 |
| 計 | 30,976 | 100% | 208,664 | 100% | 6.7 |

資料：農林業センサス 販売目的の麦の作物別作付経営体と作付面積

○ 地域別大麦作付経営体数と作付面積 (R2)

| | 作付経営体数 (経営体) | | 作付面積 (ha) | | 一経営体 当たり面積 (ha) |
|-------|-----------------|------|-----------|------|-----------------------|
| | 体数 | 割合 | 面積 | 割合 | |
| 北海道 | 431 | 3% | 1,885 | 3% | 4.4 |
| 都府県 | 12,844 | 97% | 59,090 | 97% | 4.6 |
| 東北 | 196 | 1% | 1,316 | 2% | 6.7 |
| 関東・東山 | 4,397 | 33% | 16,258 | 27% | 3.7 |
| 北陸 | 1,788 | 13% | 9,123 | 15% | 5.1 |
| 東海 | 486 | 4% | 737 | 1% | 1.5 |
| 近畿 | 436 | 3% | 1,731 | 3% | 4.0 |
| 中国 | 779 | 6% | 4,123 | 7% | 5.3 |
| 四国 | 717 | 5% | 2,870 | 5% | 4.0 |
| 九州 | 4,044 | 30% | 22,930 | 38% | 5.7 |
| 沖縄 | 1 | 0% | 1 | 0% | 1.0 |
| 計 | 13,275 | 100% | 60,975 | 100% | 4.6 |

資料：農林業センサス 販売目的の麦の作物別作付経営体と作付面積

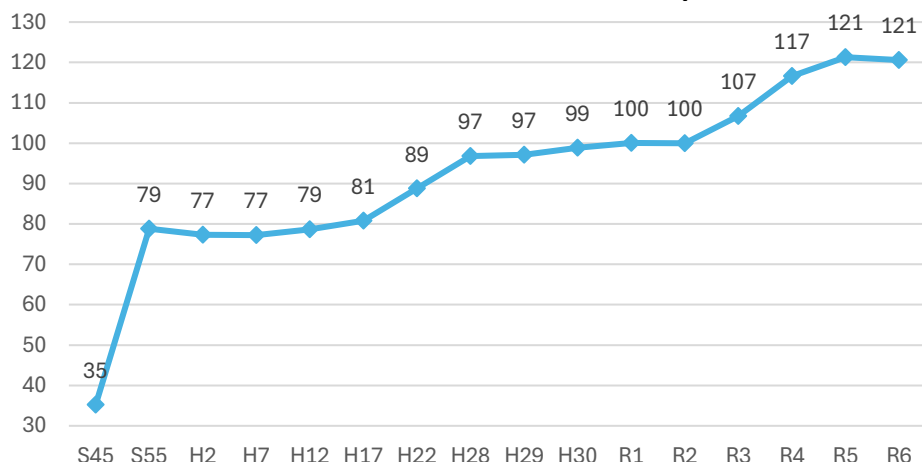
小麦の生産費

- 小麦の10a当たり生産費は6～7万円台で推移している。
- **労働時間の短縮により労働費は減少傾向にあるものの、肥料費や賃借料の上昇により物財費は増加傾向にある。**

| 区分 | 10a当たり全算入生産費 | | | 全算入生産費 (60kg当たり) | 10a当たり労働 時間 | 10a当たり主産 物数量(kg) | 1経営体当たり 作付面積(ha) | 参考(作物統計) | |
|-------|--------------|--------|--------|---------------------|----------------|---------------------|---------------------|----------|-----------|
| | (円) | うち物財費 | うち労働費 | | | | | 作付面積(ha) | 収穫量(t) |
| H2年産 | 64,679 | 39,924 | 10,454 | 9,624 | 8.59 | 403 | 1.31 | 260,400 | 951,500 |
| H7年産 | 62,462 | 38,473 | 10,848 | 10,757 | 6.54 | 349 | 1.71 | 151,300 | 443,600 |
| H12年産 | 62,359 | 39,484 | 9,997 | 9,065 | 6.14 | 413 | 2.08 | 236,600 | 688,200 |
| H17年産 | 60,941 | 41,280 | 8,606 | 8,256 | 5.59 | 441 | 2.64 | 268,300 | 874,700 |
| H22年産 | 58,415 | 43,618 | 5,695 | 11,243 | 3.68 | 313 | 6.75 | 206,900 | 571,300 |
| H27年産 | 63,764 | 50,063 | 5,784 | 7,023 | 3.66 | 545 | 7.37 | 213,100 | 1,004,000 |
| R1年産 | 67,426 | 52,065 | 6,332 | 7,465 | 3.55 | 542 | 7.99 | 211,600 | 1,037,000 |
| R2年産 | 67,348 | 52,811 | 6,281 | 8,180 | 3.50 | 495 | 8.13 | 212,600 | 949,300 |
| R3年産 | 67,967 | 53,779 | 5,959 | 7,258 | 3.43 | 562 | 8.65 | 222,000 | 1,097,000 |
| R4年産 | 69,551 | 55,151 | 5,935 | 8,804 | 3.41 | 475 | 8.79 | 227,300 | 993,500 |
| R5年産 | 74,230 | 60,334 | 5,826 | 8,638 | 3.25 | 516 | 9.27 | 231,700 | 1,094,000 |
| R6年産 | 73,670 | 59,327 | 6,102 | 8,722 | 3.33 | 507 | 9.27 | 229,600 | 1,031,000 |

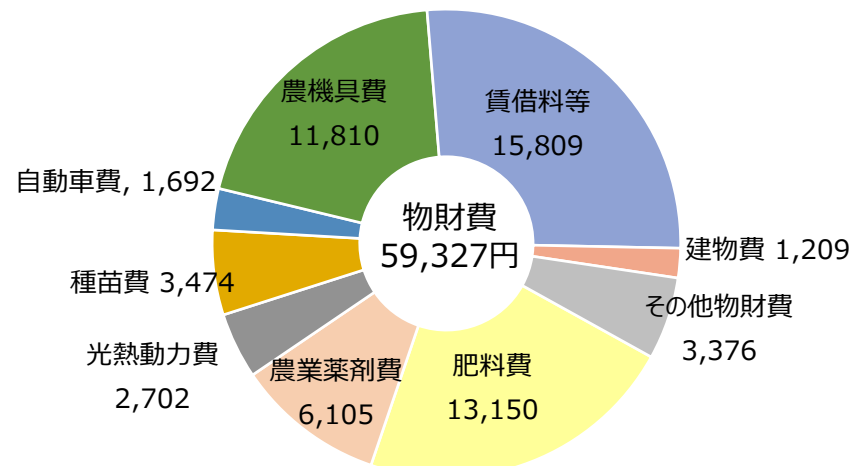
資料：農業経営統計調査 麦類生産費調査対象農家の生産概況・経営概況（調査対象経営体は小麦を10a以上作付けし、販売する個別経営体）

○ 農業生産資材価格指数の推移（R2:100）



資料：農産物価統計調査

○ 小麦の物財費の内訳（10a当たり R6年産）

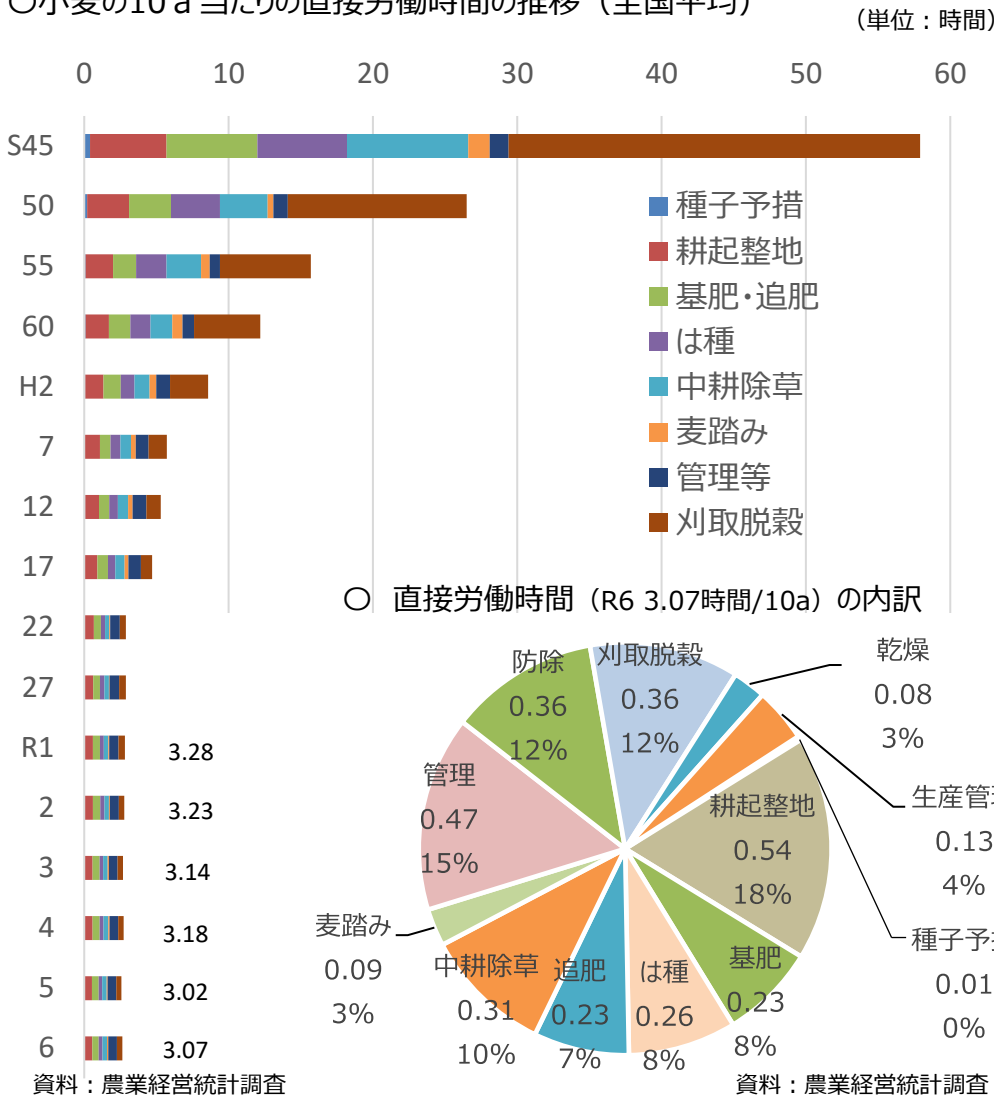


資料：農業経営統計調査 麦類生産費

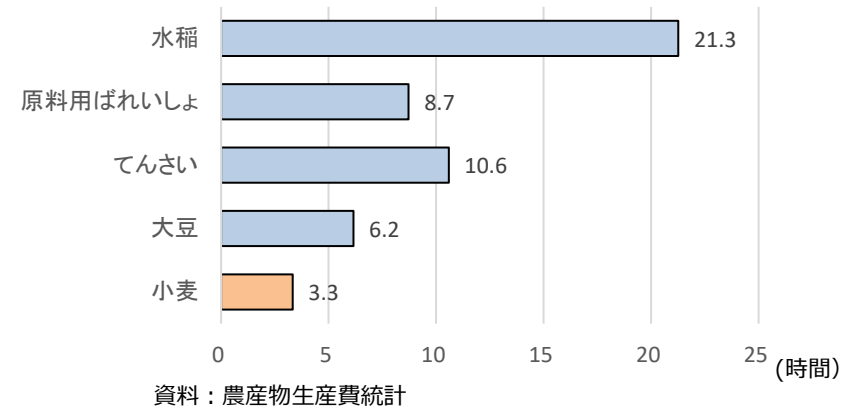
小麦の10a当たりの労働時間

- 小麦の10a当たり作業時間は作業の機械化の進展により労働時間が短縮され、米など他の作物と比較しても、単位面積当たりの農作業の軽労化が図られている。
- 担い手への集積が進んでおり、**10ha以上の経営規模の作付シェアは64%**（R2）まで増加した。

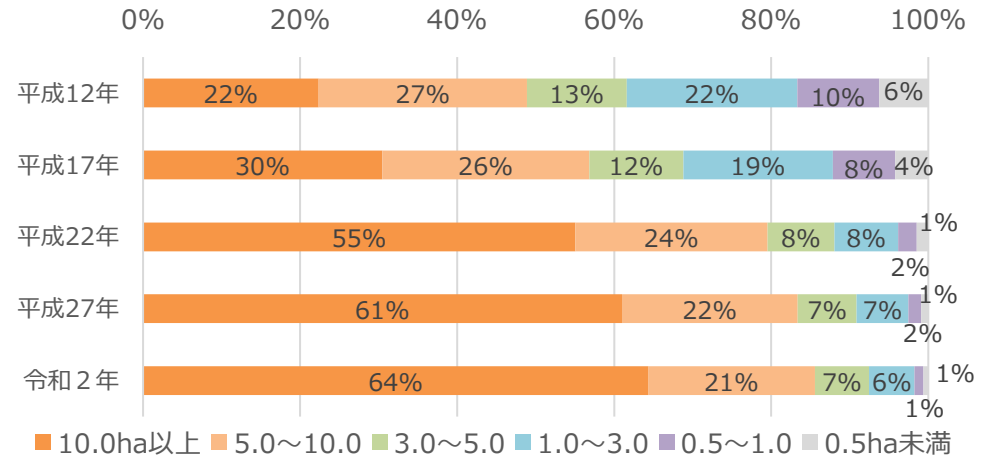
○小麦の10 a 当たりの直接労働時間の推移（全国平均）



○10a当たり労働時間（令和6年産）



○経営規模別作付面積のシェアの推移



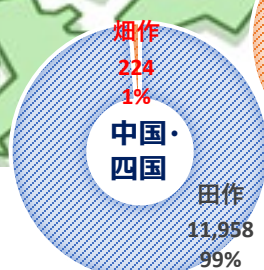
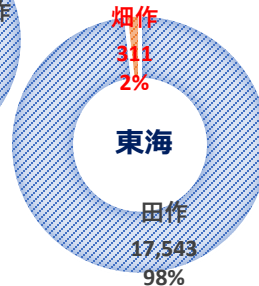
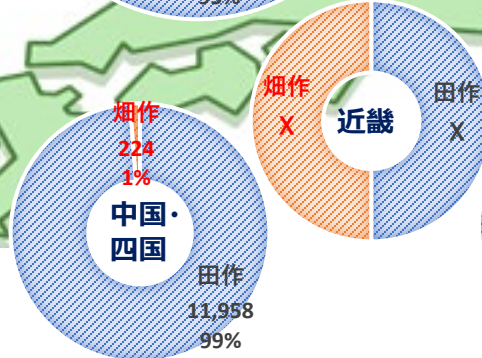
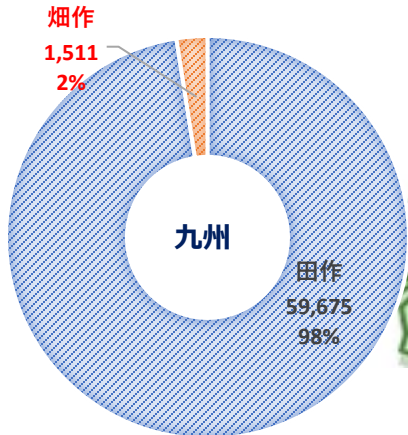
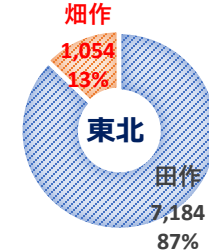
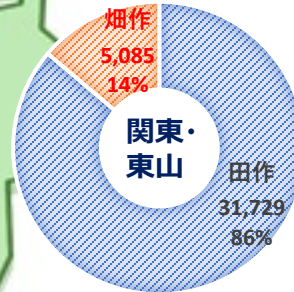
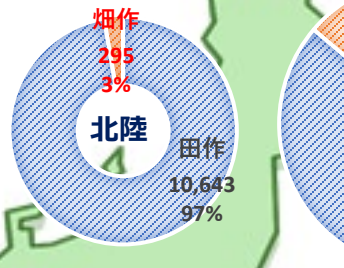
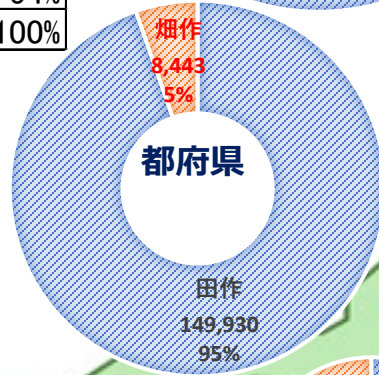
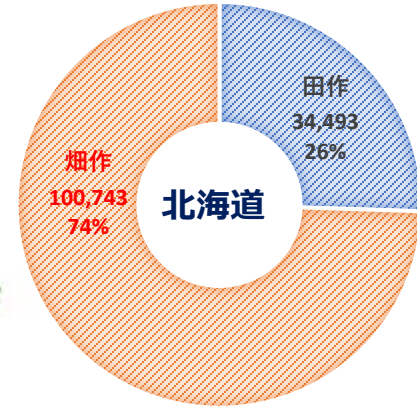
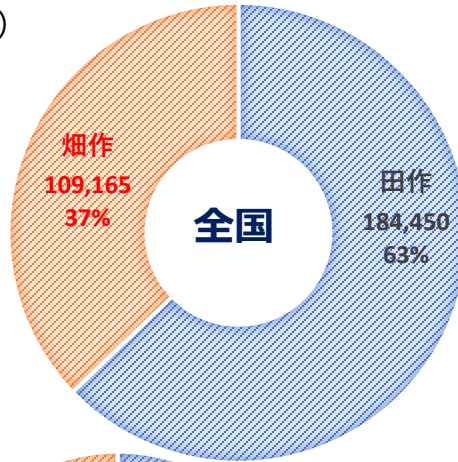
注：平成17年までは販売農家、平成22年からは経営体の規模別作付面積のシェアの推移
面積割合は小数点以下第一位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

麦の地域別作付面積と田畑の割合

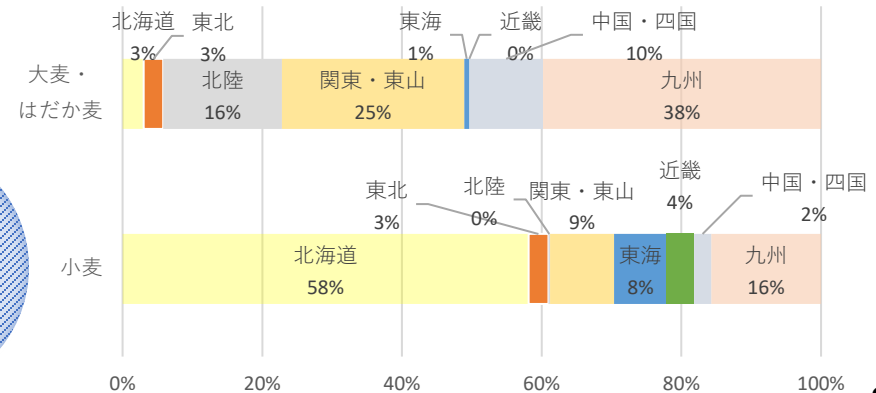
- 麦の作付面積の約半数を北海道が占めている。
- **北海道では4分の3が畑地**で栽培されているのに対し、**都府県では9割が水田**での作付けとなっている。

令和7年産4麦の作付面積（単位：ha）

| 地域 | 作付面積 | シェア |
|-------|---------|------|
| 北海道 | 135,238 | 46% |
| 東北 | 8,231 | 3% |
| 北陸 | 10,906 | 4% |
| 関東・東山 | 36,838 | 13% |
| 東海 | 17,844 | 6% |
| 近畿 | 8,840 | 3% |
| 中国・四国 | 12,096 | 4% |
| 九州 | 61,160 | 21% |
| 都府県 | 158,400 | 54% |
| 全国 | 293,660 | 100% |



○ 作付面積に占める各産地の割合（令和7年産）



資料：作物統計をもとに作成

注：近畿の田作、畑作のXは個人等の秘密保持のため数値が公表されていないことを示す。

資料：麦類生産費統計、作物統計

各地域における麦類の作付体系

○ 麦は、北海道畑作においては**輪作体系を支える基幹作物**、都府県においては水田作の**水稲の裏作作物**、**稲・麦・大豆の2年3作作物**として、各産地の作付体系を維持する上で重要な作物となっている。

北陸

作付体系：水田作（麦、**稲-麦-大豆**、大豆-麦）
主な麦種：六条大麦

近畿

作付体系：水田作（**稲-麦-大豆**、麦）
主な麦種：小麦、六条大麦

中国

作付体系：水田作（**稲-麦**、**稲-麦-大豆**）
主な麦種：小麦、二条大麦

九州

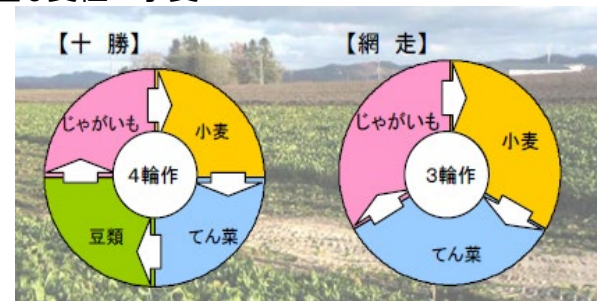
作付体系：水田作（**稲-麦**、大豆-麦）
主な麦種：小麦、二条大麦、はだか麦

四国

作付体系：水田作（**稲-麦**、麦）
主な麦種：小麦、はだか麦

北海道

作付体系：畑作（小麦-**てん菜-豆類-馬鈴しょ**、**小麦-てん菜-馬鈴しょ**）
水田転作（麦）
主な麦種：小麦



東北

作付体系：水田作（麦、**稲-麦-大豆**、大豆-麦）
主な麦種：小麦、六条大麦

関東

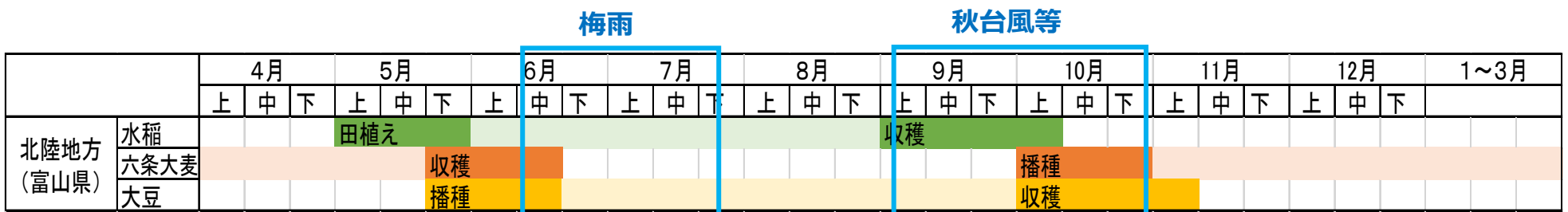
作付体系：水田作（**稲-麦**、麦、大豆-麦、**稲-麦-大豆**）
畑作（麦）
主な麦種：小麦、二条大麦、六条大麦

東海

作付体系：水田作（**稲-麦-大豆**、麦、**稲-麦**）
主な麦種：小麦

単収・品質の安定化への課題（作業競合・気象要因）

- 播種や収穫作業は、梅雨や秋台風の時期に重なるため、**天候の影響により他品目との作業競合が起こりやすく**、単収減少の原因となる。
- **収穫期が降雨時期に当たる**ことから、収量や品質の変動が大きい。収量・品質の安定化が課題。



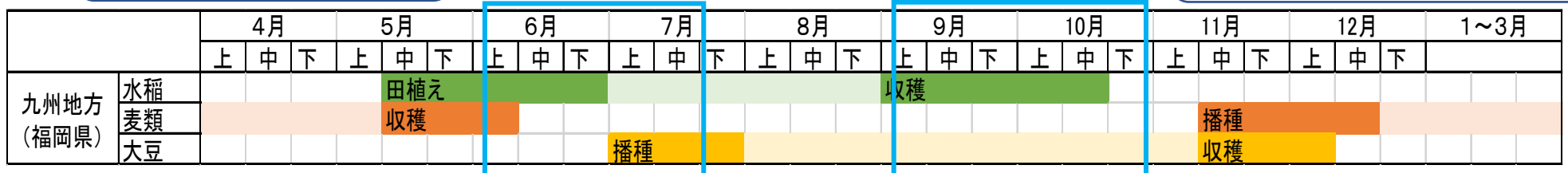
梅雨の時期に麦の収穫と大豆の播種が重複。適期に作業が行えなくなる。

秋台風や秋雨前線の影響で、米の収穫が後ろ倒しになる他、大麦の播種や大豆の収穫作業が遅れる。



梅雨の影響で小麦の収穫が後ろ倒しになり、後作の大豆の播種作業が遅れる。

秋台風の影響で、米の収穫が後ろ倒しになり、適切な時期に播種及び収穫が行われない。



梅雨の時期に、麦類の収穫、田植え及び大豆の播種が重複するため、小麦の収穫や大豆の播種作業が遅れることがある。

秋台風や秋雨前線の影響で、米の収穫が後ろ倒しになること等により、大豆の収穫や麦類の播種に影響が出る。

単収・品質の安定化への課題（連作障害）

○ 適切な輪作がなされず 1つの作物に偏った経営になっていると、リスク分散が図られず、連作障害や災害による被害を受けやすくなる。

○ 連作によって懸念される小麦の病害

雪腐病



眼紋病



なまぐさ黒穂病



コムギ縞萎縮病

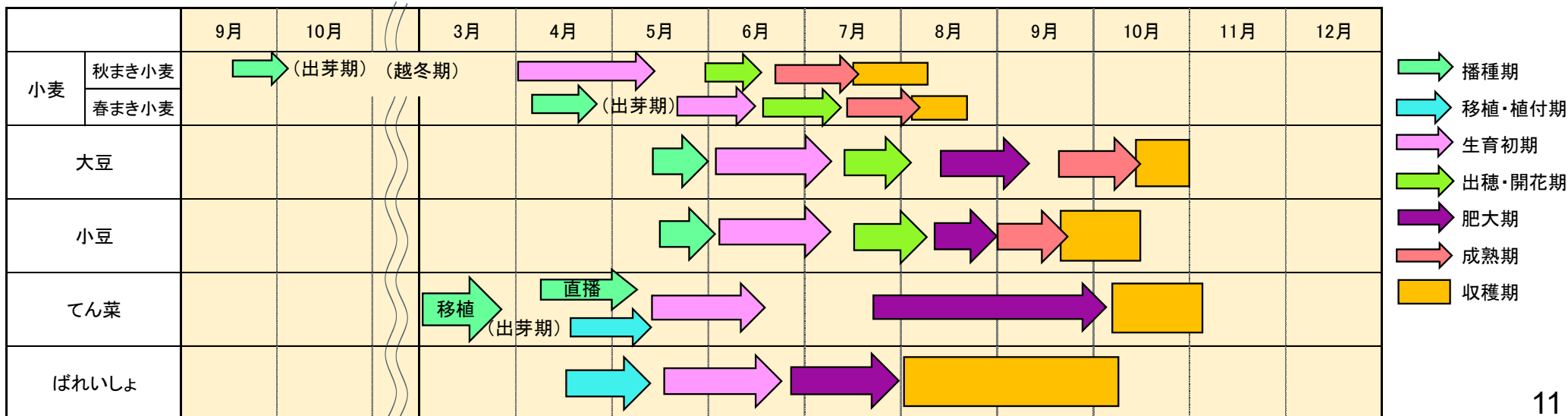


左：発病 右：正常

| 発生年次 | 発生面積等（北海道の例） |
|-------|---|
| 令和6年 | 雪腐病：19,458ha 眼紋病：8,159ha 縞萎縮病：道東地域を中心に発生が目立ち、病徴は例年より早くから見られた。 |
| 令和4年 | 雪腐病：46,324ha 眼紋病：4,623ha 縞萎縮病：道東地域を中心に発生が目立った。 |
| 平成28年 | なまぐさ黒穂病：1,000ha超 |

○ 畑作物の生育時期の違い（北海道の例）

資料：農林水産省穀物課調べ

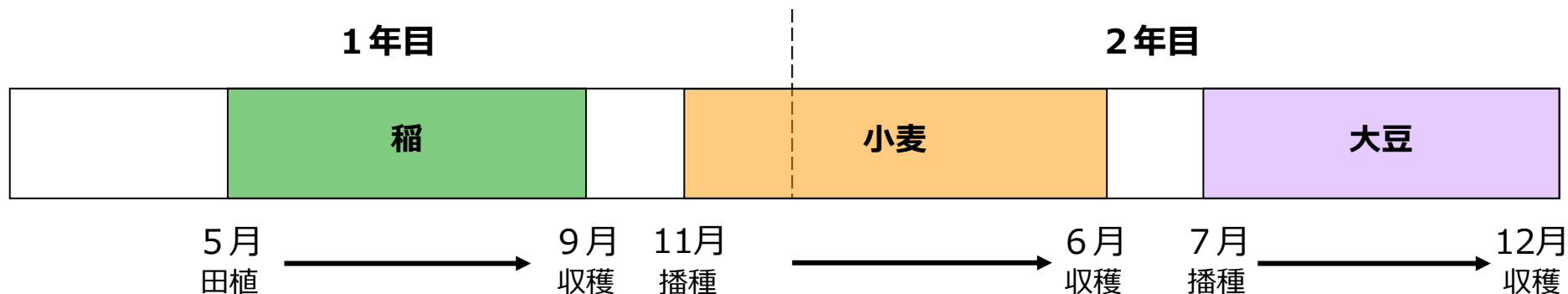


稲・麦・大豆の2年3作体系

- 2年3作体系とは、水田において稲・麦・大豆のように、2年間に3作物を栽培する作付体系のこと。
- 関東以西の温暖な地域では、**水田をブロック単位でローテーション**させることで、作業効率を高めつつ、病害虫や雑草による被害を防ぐ栽培方法（**ブロックローテーション**）として広く実施。

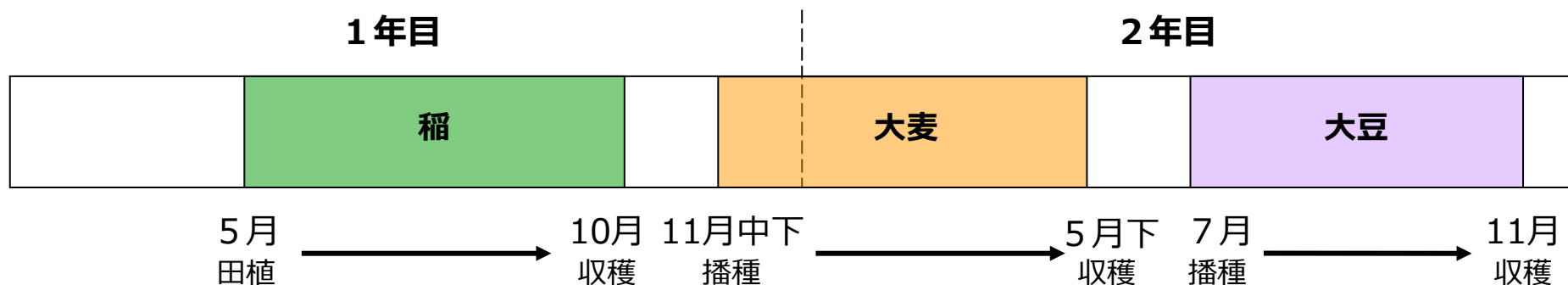
○ 東海地域の例

- ・水稲収穫後に小麦を作付ける地域。



○ 関東地域の例

- ・水稲収穫後に大麦を作付ける地域。
- ・水稲の収穫時期が遅い地域では、一般的に生育期間が短い大麦が選択されることが多い。



単収・品質向上のための技術対策

- **湿害は麦の単収・品質の低下要因**。湿害により生育不良、未熟穂等が発生し、麦の単収・品質に大きな影響を与えている。
- 多くの産地で排水対策が行われているが、依然として湿害に悩む産地は多い。基盤整備による排水対策に加え、**各ほ場の条件に応じて効果は高いが実施率が停滞している弾丸暗渠、心土破碎などの排水対策**を行うことが重要となる。

○ 湿害による影響



湿害により発芽不良が発生した小麦ほ場



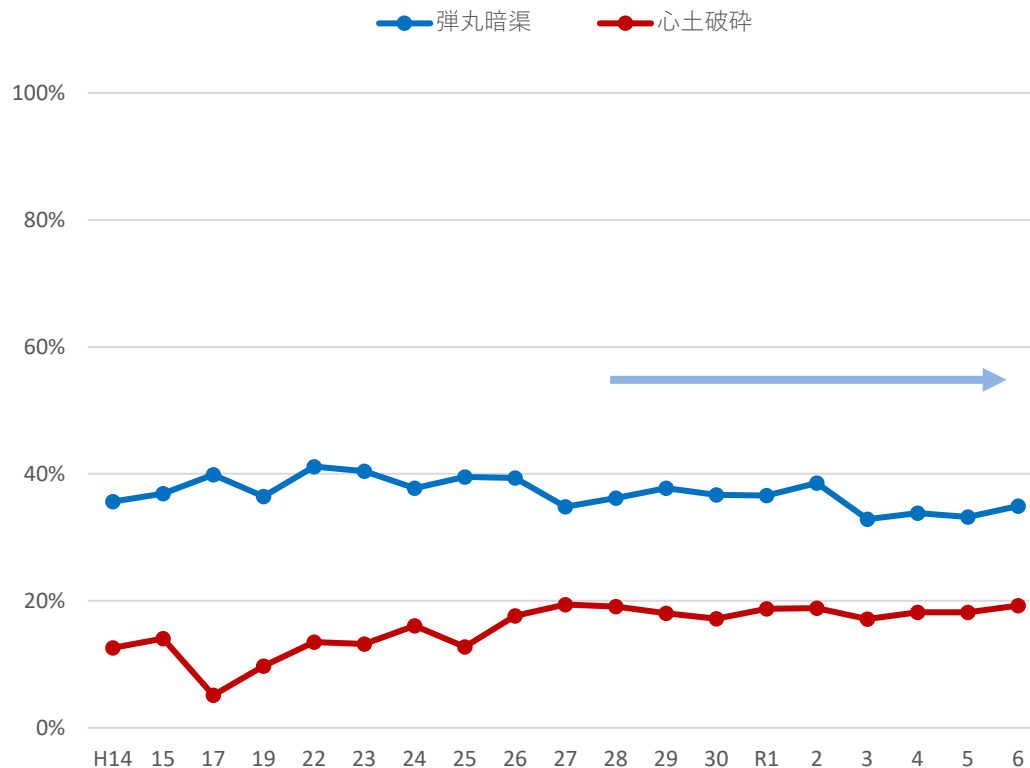
排水不良個所が枯れ熟れた小麦ほ場



営農排水対策を実施したほ場（左）と未実施ほ場（右）

資料：診断に基づく小麦・大麦の栽培改善技術導入支援マニュアル（農研機構）

○ 水田における排水対策の実施状況の推移

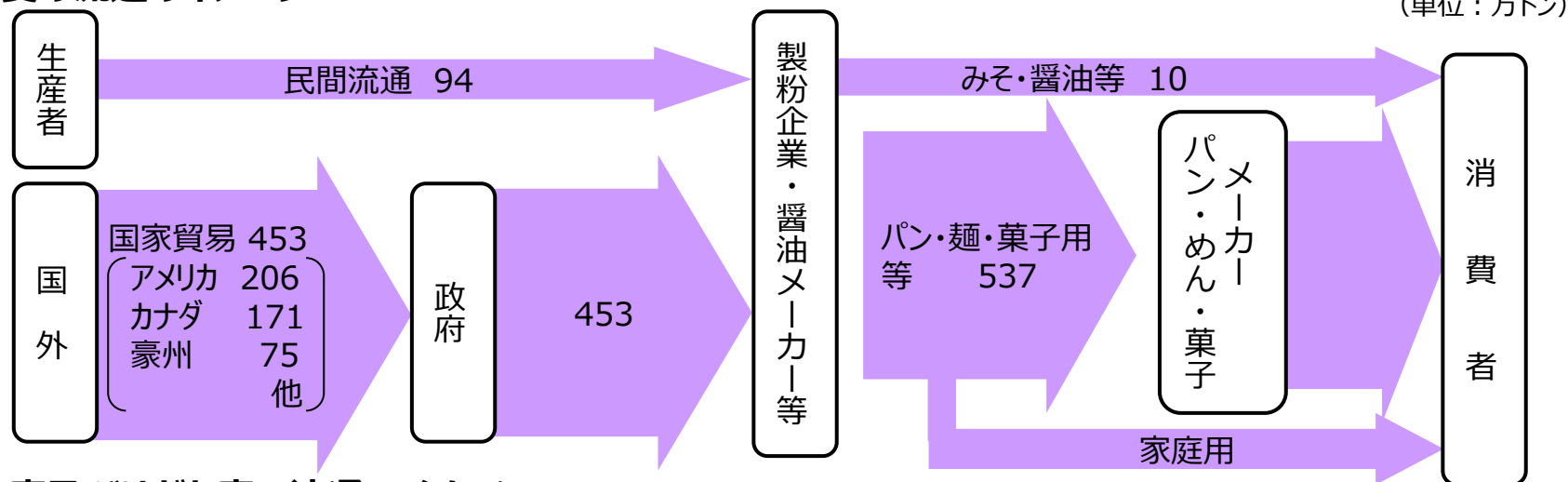


資料：農林水産省穀物課調べ

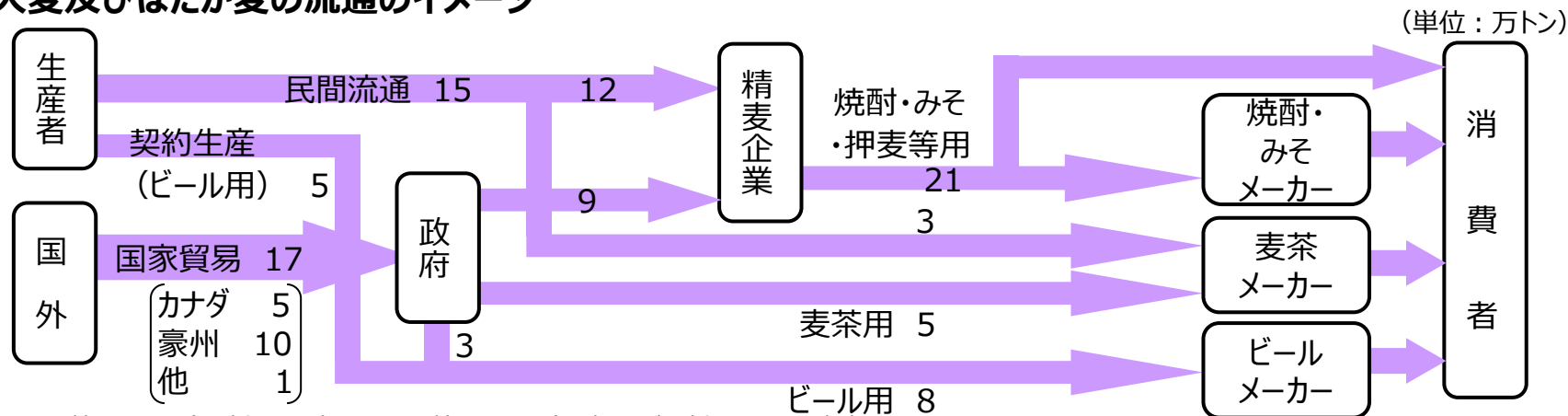
小麦・大麦・はだか麦の流通

- 国内需要量の約 2 割を占める国産小麦は、民間流通により取引されており、残り約 8 割を占める外国産小麦については、国家貿易により一元的に輸入されている。主に製粉企業が製粉して小麦粉にし、その小麦粉を原料として二次加工メーカーがパン・麺・菓子等を製造している。
- 大麦・はだか麦については、精麦して焼酎、みそ等の発酵用、押麦（麦飯）用等として流通している。

○ 食用小麦の流通のイメージ



○ 食用大麦及びはだか麦の流通のイメージ



資料：「麦をめぐる事情について（小麦）」、「麦をめぐる事情について（大麦・はだか麦）」農林水産省貿易業務課
 注：流通量は、過去 5 年（R2～R6 年度）の平均数量である。

国内産麦の取引の仕組み

○ 国産麦は、需要に応じた生産を計画的に促進するため、**播種前に生産者と需要者（製粉企業等）の間で取引数量・取引価格について契約を結び、その契約に基づき取引を実施。**

○ 販売予定数量の約3～4割について入札を行い、残りは入札で形成された価格を基本とする相対取引が行われている。

○ 国産麦の民間流通

<契約の流れ>

収穫前年
7月～ 生産者団体から販売予定数量、需要者団体から購入希望数量の相互提示

生産者団体と需要者で
播種前に契約を締結

8～9月 入札取引の実施（販売予定数量の約3～4割）

9月～ 相対取引の実施（販売予定数量の約6～7割）

播種前契約に基づき計画的に作付

<生産の流れ>

～12月 播種（秋まき。春まきは収穫年の4月頃）

収穫年6月～8月 収穫及び検査

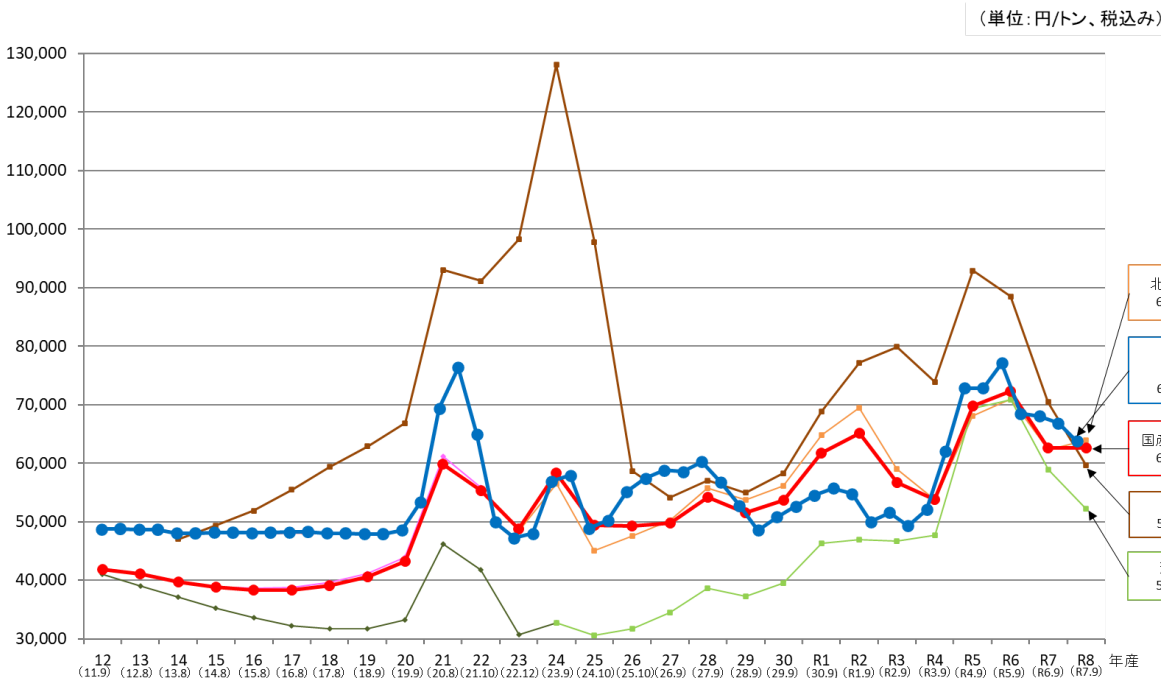
収穫年6月～ 需要者へ引渡し

注：生産者団体と需要者で構成する民間流通連絡協議会において、値幅制限等の入札の仕組みが協議・決定されている。

国産小麦の産地銘柄別落札価格の動向

- 令和8年産国内産小麦の全銘柄落札加重平均価格は、国内産小麦の需要や直近の輸入小麦の価格動向等を反映し、62,554円（税込み）／トン。
- 産地銘柄別の入札結果をみると、需給状況等を反映して落札価格に差が生じている。

○ 国内産小麦の産地銘柄別落札価格の推移



資料：農林水産省調べ

注1：国内産小麦の価格は、(一社)全国米麦改良協会が実施する民間流通麦にかかる入札の第1回、第2回及び再入札の落札加重平均価格(税込み)。年産の下の()内は当該第1回入札の実施年月である。

注2：外国産小麦の価格は、18年までは当該年度平均の実績価格であり、19年以降は、民間流通麦にかかる第1回入札の実施年月時点での輸入小麦の政府売渡価格(5銘柄平均)である。

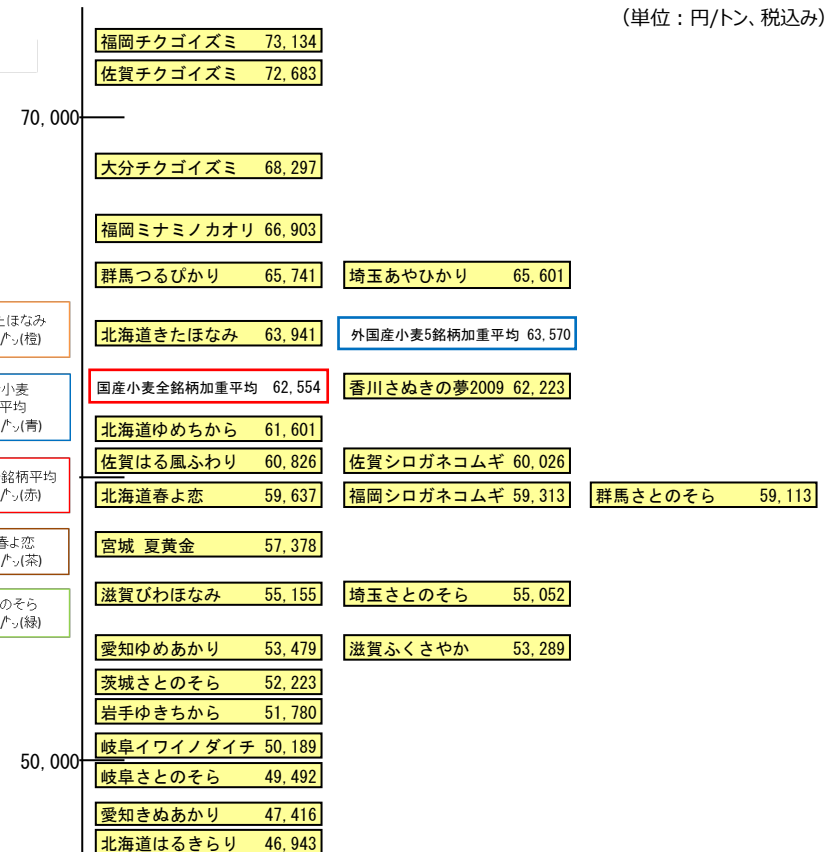
注3：きたほなみ(ホクシン)については、22年産までは「ホクシン」の価格であり、23年産からは「きたほなみ」の価格である。

注4：さとのそら(農林61号)については、23年産までは「農林61号」の価格であり、24年産からは「さとのそら」の価格である。

資料：「麦をめぐる事情について(小麦)」農林水産省貿易業務課

○ 令和8年産国内産小麦の産地銘柄別落札価格

(単位：円/トン、税込み)



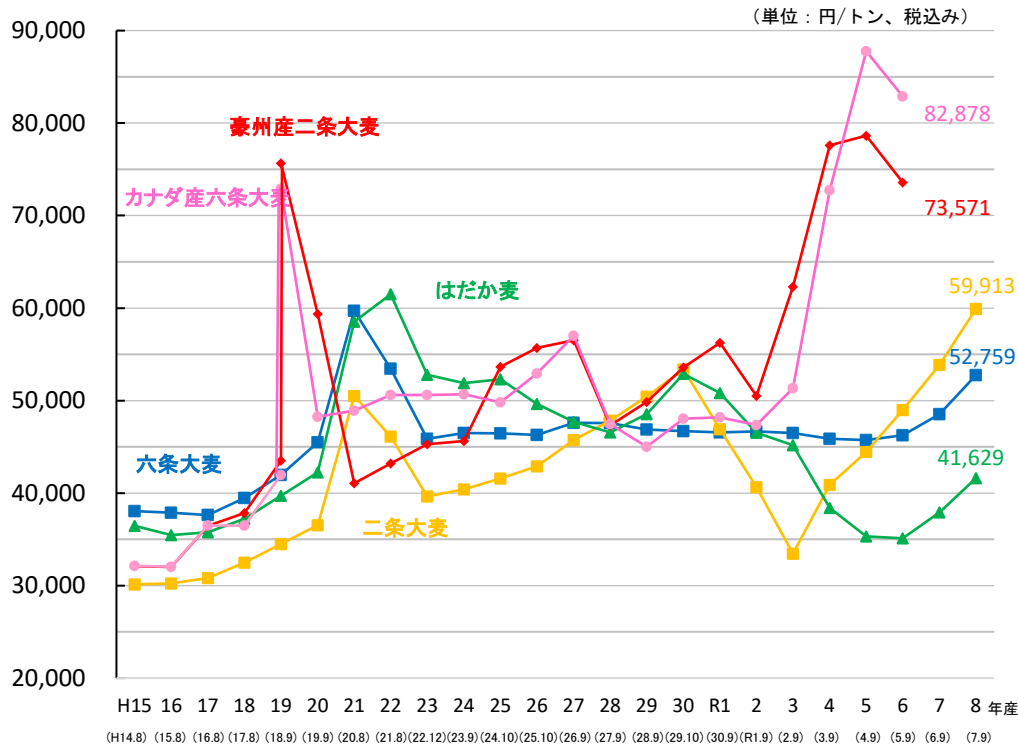
資料：農林水産省貿易業務課調べ

注：外国産小麦5銘柄加重平均価格は、令和7年4月期の輸入小麦の政府売渡価格である。

国産大麦の産地銘柄別落札価格の動向

- 令和8年産の全銘柄落札加重平均価格は、二条大麦で59,913円/トン、六条大麦で52,759円/トン、はだか麦で41,629円（税込み）/トン。
- 令和8年産の入札結果をみると、需給状況等を反映して麦種や産地銘柄別の落札価格に差が生じている。

○ 国内産大麦・はだか麦の落札価格の推移

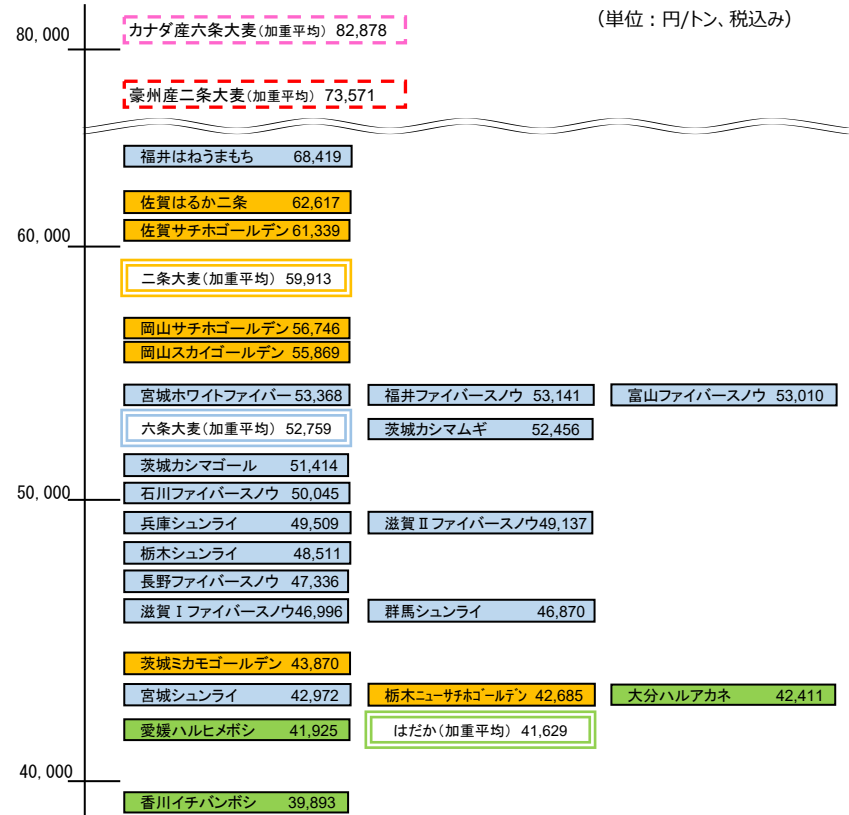


資料：農林水産省調べ

注1：国内産麦の価格は、(一社)全国米麦改良協会が実施する民間流通麦にかかる入札の第1回、第2回及び再入札の落札加重平均価格(税込み)。年産の下段の()内は当該第1回入札の実施年月である。

注2：外国産麦の価格は、19年までの政府売渡価格(税込み)、SBS方式が導入された19年以降における各年度の食糧用SBS大麦(輸入区分I)における政府売渡価格の加重平均価格(税込み)である。

○ 令和8年産国内産大麦・はだか麦の産地銘柄別落札価格



資料：農林水産省貿易業務課調べ

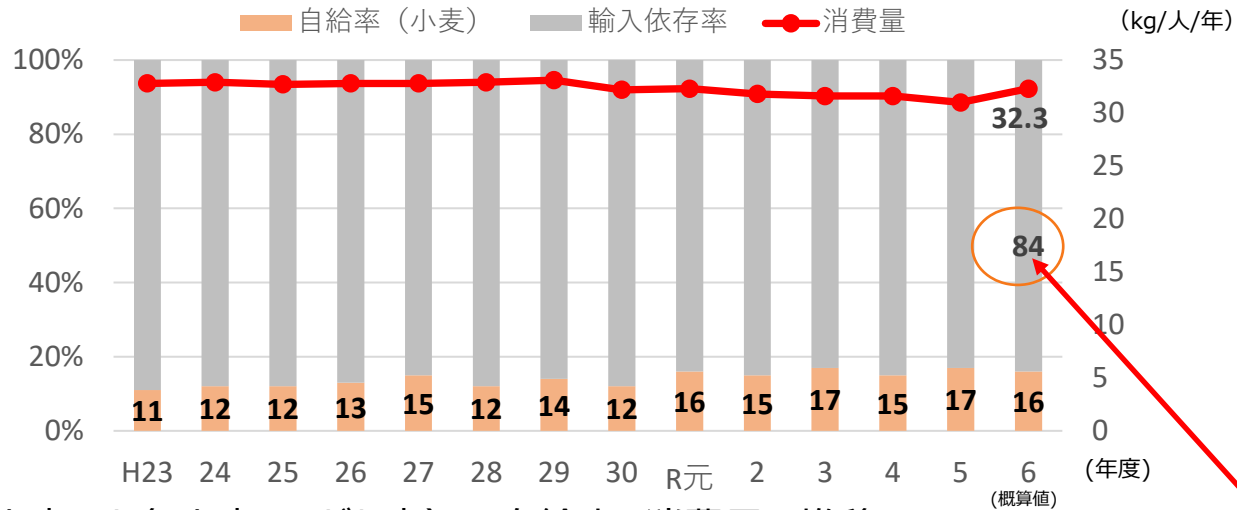
注1：外国産麦の価格は、R6年度食糧用SBS大麦(輸入区分I)の政府売渡価格の加重平均価格である。

注2：■：二条大麦、■：六条大麦、■：はだか麦。

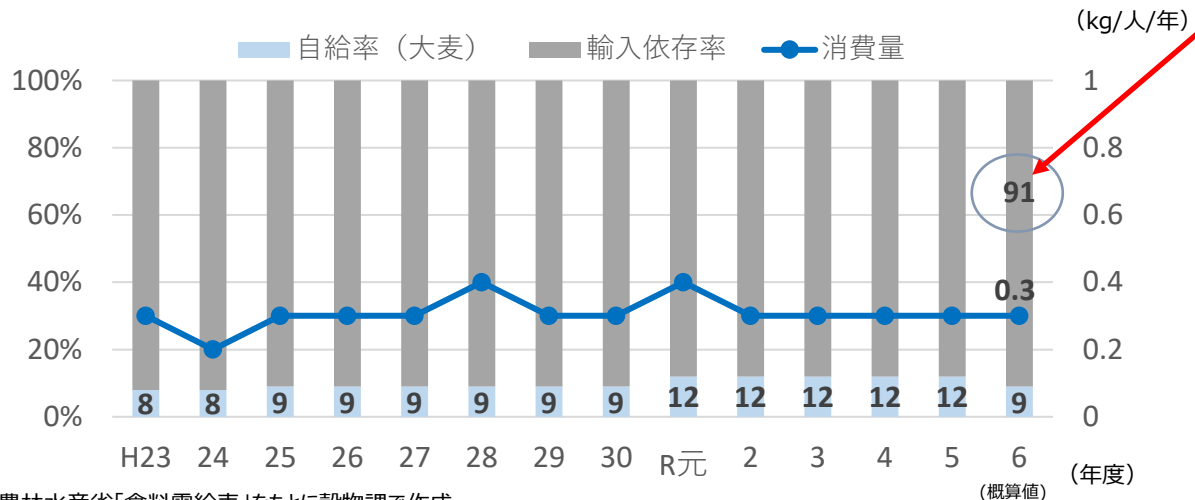
国産麦の自給率と消費量

- 令和6年度（概算値）における食料自給率は、小麦で16%、大麦で9%（重量ベース）。
- 1人当たりの年間消費量は、小麦で31~33kg、大麦（二条大麦、六条大麦、はだか麦）で0.2~0.4kgを安定的に推移。
- 年間消費量の8~9割を外国産が占めている。

○ 小麦の自給率と消費量の推移



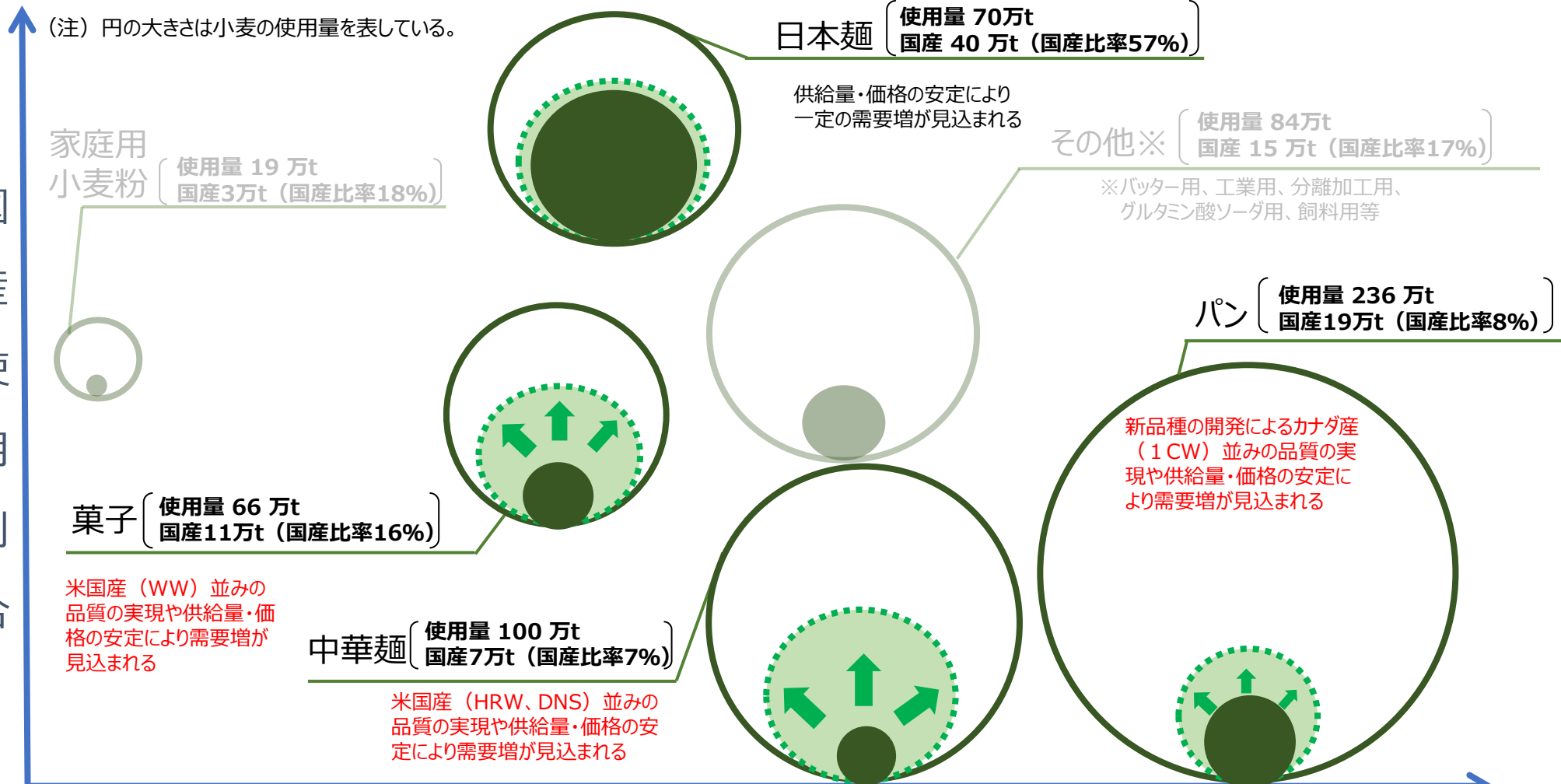
○ 大麦（二条大麦、六条大麦、はだか麦）の自給率と消費量の推移



国産切替えの可能性

国産小麦の用途別需要動向

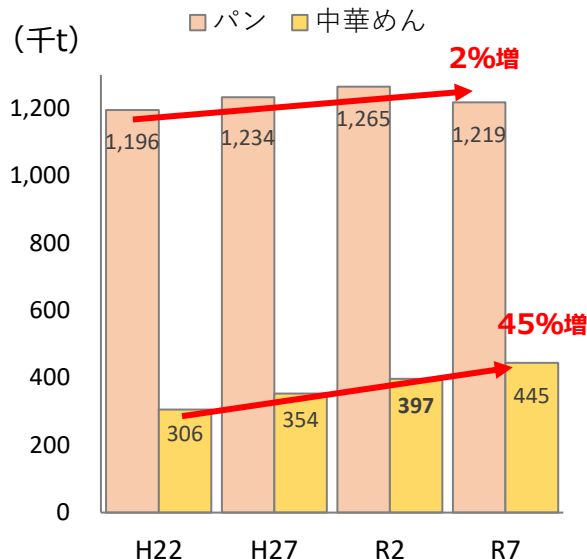
- 小麦の用途は、①パン用、②中華麺用、③日本麺用、④菓子用の順に使用量が多い状況。
- **国産小麦の使用割合は、日本麺用では6割程度**を占めるが、その他の用途では1～2割の使用に留まっているところ。
- 国産小麦の供給量・価格の安定や品質の向上が進めば、クッキー、ビスケット等の**菓子用**や**中華麺用**において需要が増加する見込み（特にパン用については、新たな品種の開発が望まれる状況）。



小麦の国産切替え

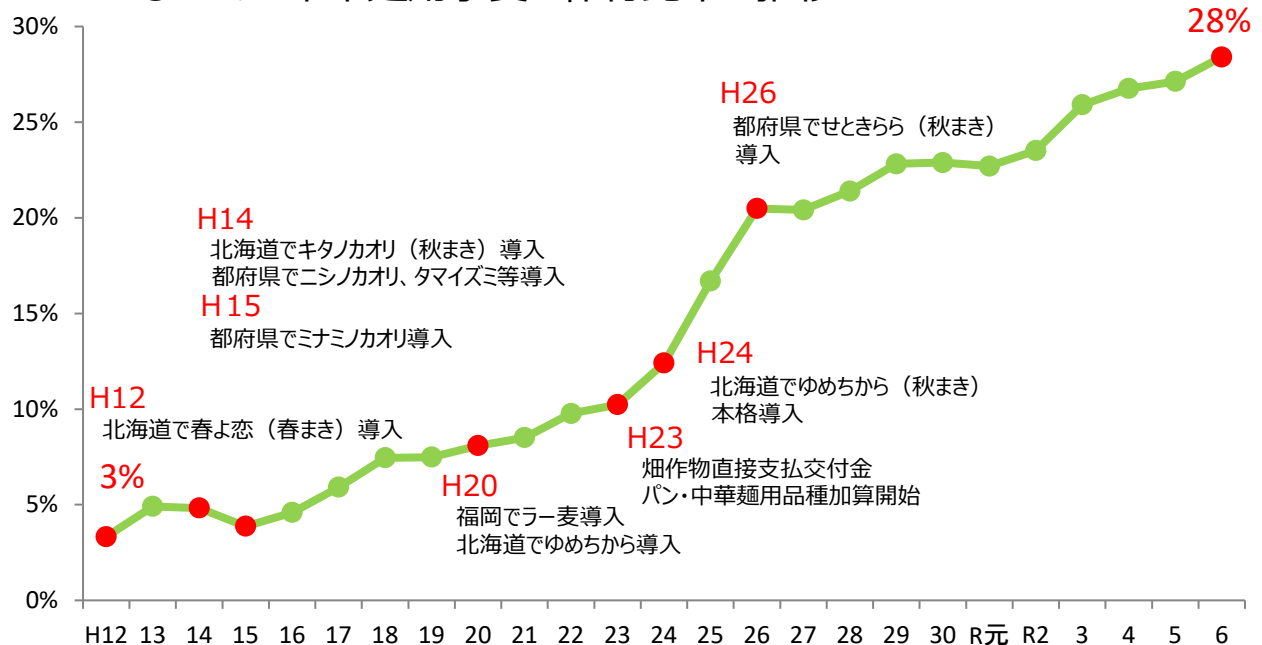
- 直近15年間で、パン用・中華麵用小麦粉の国内使用量は増加傾向である。
- 近年、品種改良が進み、実需者が求める品質に見合った小麦の生産が実現しつつあることから、パン・中華麵用小麦の作付比率が上昇しており、国産麦の使用が進んでいる。

○ 麦製品の小麦粉使用量の推移



資料：食品産業動態調査をもとに穀物課で作成

○ パン・中華麵用小麦の作付比率の推移



資料：農林水産省穀物課調べ

○ 国産小麦を使用した商品



・国産小麦「ゆめちから」や「きたほなみ」を使用した菓子パンと食パン。

・某全国チェーンの飲食店において、原料となる小麦粉を100%国産に切り替えた餃子と麵類を提供。

品質の安定化への課題（タンパク含有量の振れ）

- 近年、実需者の求める**外国産並みの品質を有する品種が開発**され、実需者では外国産から国産小麦への切り替える機運が高まっている。
- 他方で、国産小麦は**年や地域によるタンパク質含有量（食感等に影響）の振れが大きい**等の課題が存在しており、品質の安定化が課題。

○ 国産小麦と外国産小麦との品質比較（R2-R6年産）

| | 製めん試験 | | | | | |
|----------------|-------|-----|------|-------|------|-------------|
| | 色 | かたさ | 粘弾性 | なめらかさ | 食味 | 合計 |
| オーストラリア産 ASW | 14.9 | 7.5 | 19.3 | 11.1 | 10.5 | 73.8 |
| きたほなみ・北海道産 | 14.2 | 7.4 | 19.6 | 11.1 | 10.5 | 73.5 |
| さとのそら・茨城県産 | 13.4 | 6.9 | 17.5 | 10.5 | 10.5 | 69.3 |
| つるぴかり・群馬県産 | 13.3 | 7.2 | 18.8 | 10.8 | 10.5 | 71.2 |
| きぬあかり・愛知県産 | 13.7 | 7.3 | 18.9 | 11.0 | 10.5 | 72.0 |
| さめきの夢2009・香川県産 | 14.1 | 7.2 | 18.6 | 10.9 | 10.5 | 71.8 |
| チクゴイズミ・佐賀県産 | 13.0 | 7.1 | 19.5 | 11.1 | 10.5 | 71.7 |

| | 製パン試験 | | | | | |
|------------|-------|------|-----|-----|------|-------------|
| | 吸水性 | 作業性 | 焼色 | 体積 | 食感 | 総合評価 |
| カナダ産1CW | 16.0 | 16.0 | 8.0 | 8.0 | 20.0 | 80.0 |
| 春よ恋・北海道産 | 14.5 | 14.3 | 8.0 | 8.0 | 19.6 | 75.9 |
| ゆめちから・北海道産 | 18.0 | 11.4 | 7.7 | 7.8 | 17.8 | 73.8 |

資料：「国内産小麦の品質評価-令和6年産-」（令和7年6月 製粉協会技術委員会）
をもとに穀物課で作成
注：表中の数値は直近5年（R2～R6年産）平均値

○ 小麦のタンパク含有率の振れ

| | 銘柄 | タンパク含有率の振れ |
|-----------------------|-----------------|----------------------|
| 日本 麵用 | つるぴかり（群馬県産） | 9.0 % ± 0.4% |
| | きぬあかり（愛知県産） | 9.1 % ± 0.3% |
| | シロガネコムギ（福岡県産） | 10.2 % ± 0.4% |
| | チクゴイズミ（福岡県産） | 9.4 % ± 0.3% |
| | きたほなみ（北海道産） | 10.6 % ± 0.5% |
| | さとのそら（茨城県産） | 10.4 % ± 0.8% |
| | ASW（豪州産） | 9.7 % ± 0.4% |
| | パン用 | 春よ恋（北海道産） |
| ゆめちから（北海道産） | | 13.6 % ± 0.5% |
| ミナミノカオリ（福岡県産） | | 12.0 % ± 0.5% |
| 1CW（カナダ産） | | 13.9 % ± 0.3% |
| HRW(SH)（アメリカ産） | | 11.6 % ± 0.4% |

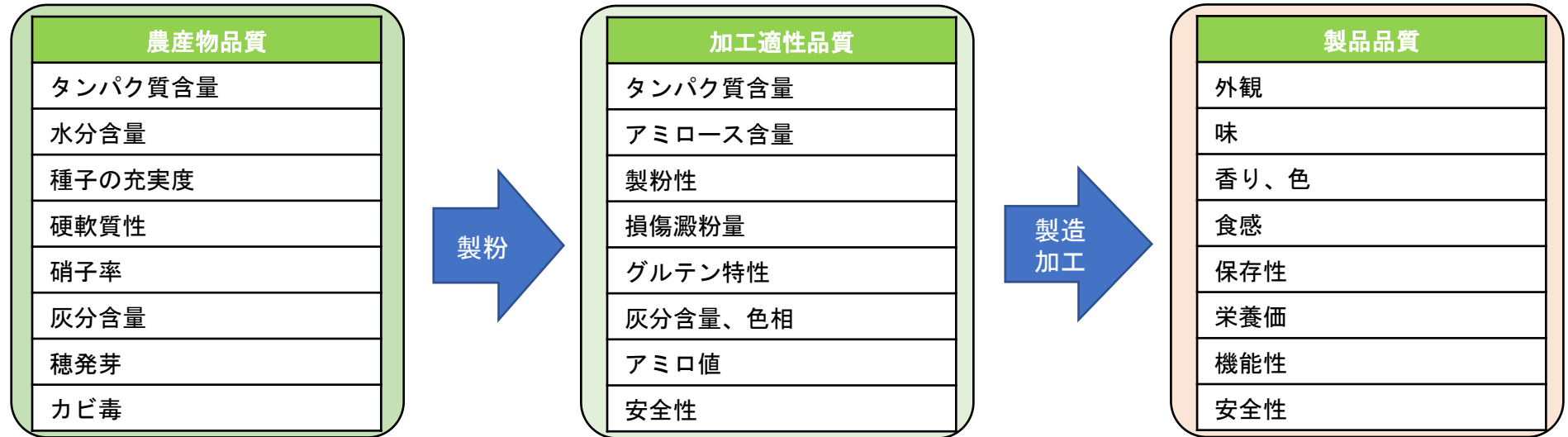
外国産と比較して振れが大きい

資料：「国内産小麦の品質評価-令和6年産-」（令和7年6月 製粉協会技術委員会）
をもとに穀物課で作成
注：表中の数値はタンパク含有率の直近5年（R2～R6年産）平均値±標準偏差。

実需者が産地に求める小麦の品質

- 生産、製粉、製造・加工の各段階で求められる品質が異なる。
- このため、産地はこれら必要とされる品質を満たす小麦を安定して供給することが求められる。

製造工程の各段階において求められる品質



資料：農研機構西日本研究センター「国産小麦の品種特性と今後の方向性」（2019）を引用、一部改変。

これらの品質を満たす小麦の安定供給が求められる

実需者が産地に求める小麦の品質

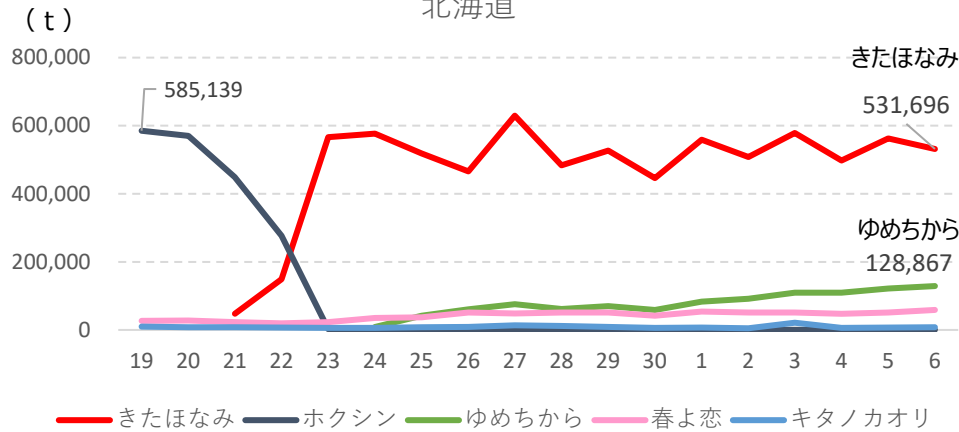
- | | |
|-----------------------|--|
| ①小麦の外観品質が良好なこと | ・被害粒（発芽粒、病害粒、退色粒等）の混入が少なく、整粒比率が高い。 |
| ②アミロ最高粘度値が低いこと | ・収穫時の雨により穂発芽が発生した場合、アミラーゼ活性が高くなり、アミロ最高粘度値とともにフォーリングナンバー値も低下。このような小麦は低アミロ小麦と呼ばれ、うどんでは煮崩れしやすく、たこ焼きやお好み焼きでは生地が固まらないなどの影響が生じる。 |
| ③水分が高すぎないこと | ・農産物規格規定（最高限度12.5%）。高いと保管時にカビや虫害が発生しやすくなる。 |
| ④容積重が高いこと | ・製粉歩留まりとの相関性が高い。 |
| ⑤灰分が低いこと | ・1.50%以下（硬質小麦は1.60%以下）。 |
| ⑥たんぱく含量が用途に対し適量であること | ・菓子用（軟質）9~10%、うどん用（中間質）10~11%、パン・中華麺用（硬質）13~14% |
| ⑦グルテン量、質が用途に対し適していること | ・グルテン量が多く質が強いと食感が固くなめらかさに欠け、グルテン量が少なく質が弱いと食感が柔らかすぎ、煮崩れが多くなる。 |
| ⑧色のよい粉が採取できること | ・黒っぽいものは倦厭されがちであり、特にうどん用はくすみのない明るいクリーミーホワイトっぽいものが望まれる。 |

資料：「国内産小麦の品質評価-令和6年産-」（令和7年6月 製粉協会技術委員会）をもとに穀物課で作成。

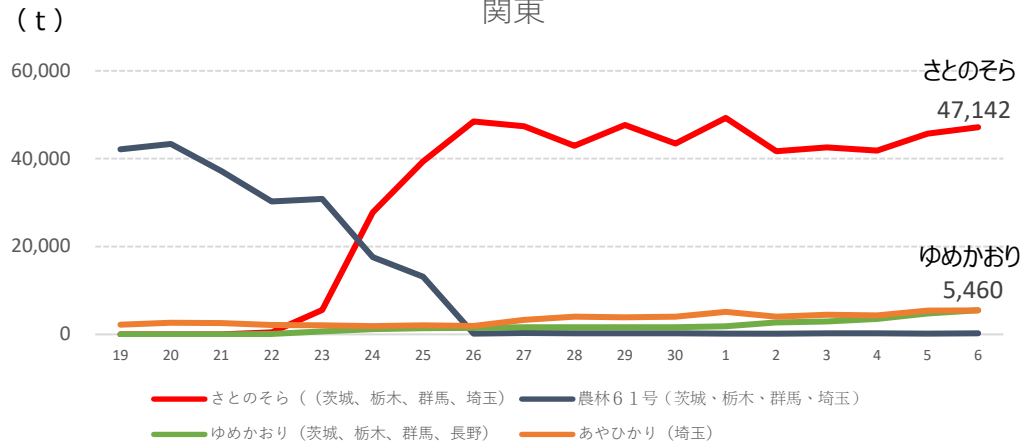
小麦主産地における地域別の品種転換状況

- 中力系小麦については、北海道、関東、東海、近畿において「ホクシン」や「農林61号」から「きたほなみ」や「さとのそら」等への切り替えが進んでいる一方、九州では「シロガネコムギ」と「チクゴイズミ」で固定されている。
- 強力系小麦については、北海道で「ゆめちから」、関東で「ゆめかおり」の生産が拡大している中、東海、近畿では目立った生産拡大がみられず、九州においては「ミナミノカオリ」などの生産がみられるものの伸び悩んでいる。

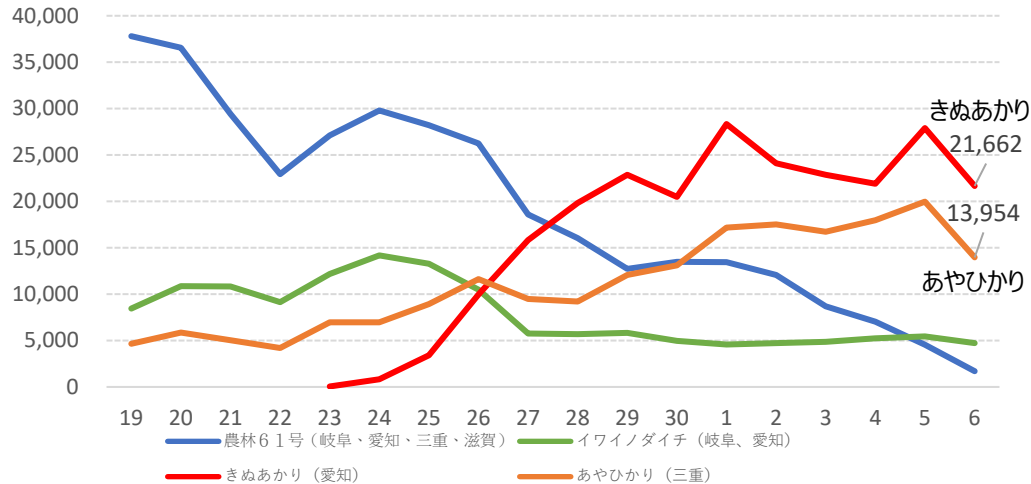
北海道



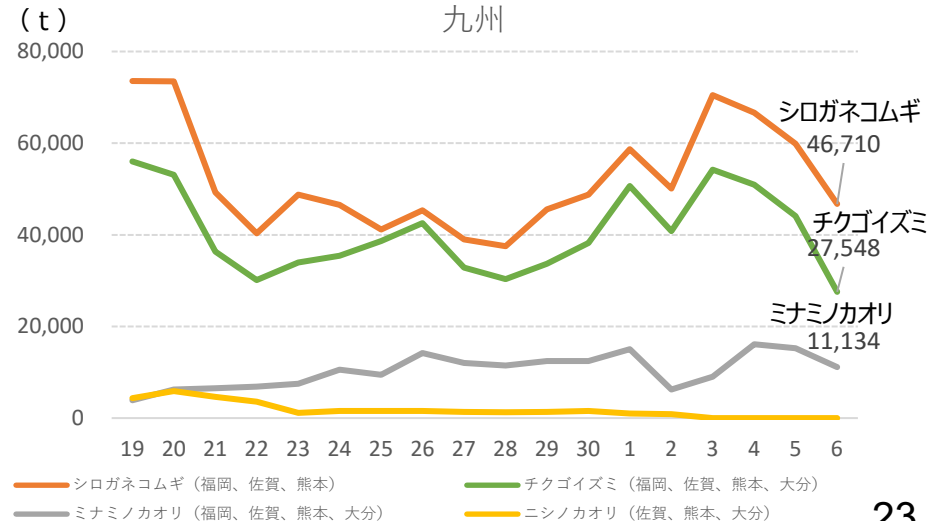
関東



東海・近畿



九州



資料：麦の農産物検査結果

小麦・大麦の品種の開発・普及

- 近年、実需者ニーズに合った優良な品種の開発・普及が進んだことにより、**国産麦を使用した製品が増加している。**
- 更なる国産需要の拡大に向けて、**栽培性や加工適性、収量性**に優れた品種の開発・普及を進める必要がある。

小麦の代表品種の事例

○ ゆめちから (H20育成)

北海道向け秋まきの強力小麦品種で、縞萎縮病、赤さび病などの耐病性、耐倒伏性にも優れている。
従来の春まきのパン・中華麺用品種と比べて収量も高く、日本麺用の中力小麦とブレンドすることで優れた製パン適性を示す。



○ きたほなみ (H19育成)

北海道向け秋まき小麦の中力小麦品種で、収量性が高く、穂発芽耐性や赤さび病抵抗性に優れる。製粉性が高く、うどんへの製めん適性も優れる。
きたほなみと同等の収量性や品質で縞萎縮病にも強い新品种「きたほなみR」がR7に開発され、今後の道産小麦の安定生産への貢献が期待される。

○ せとのほほえみ (R6育成)

強力小麦品種で、子実のタンパク含有量が高く製パン性に優れる。縞萎縮病抵抗性に強く、秋播性のため春先の低温による凍霜害のリスクが少ない。西日本を中心にパン用小麦として普及が期待される。

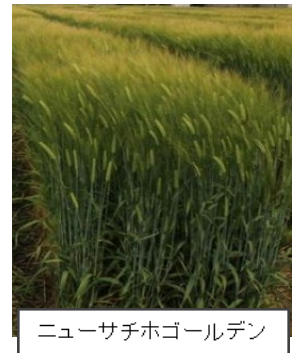
大麦の代表品種の事例

○ はるか二条 (H25育成)

従来品種「ニシノホシ」の縞萎縮病ウィルスに弱く、穂発芽しやすいといった欠点を改善した二条大麦品種。「ニシノホシ」と比べて、強い縞萎縮病抵抗性や耐倒伏性を有し、穂発芽性も難。また、整粒収量は「ニシノホシ」の約3割も多く、多収。精麦品質も良く、食用・焼酎用に適する。

○ ニューサチホゴールデン (H27育成)

従来品種「サチホゴールデン」と特性は同等だが、ビール中の脂質を酸化させ、ダンボール臭と言われる不快臭の発生や泡持ちの低下の原因となる脂質酸化酵素リポキシゲナーゼを含まない二条大麦品種。
このため、鮮度劣化しにくいビールの製造が期待できる。



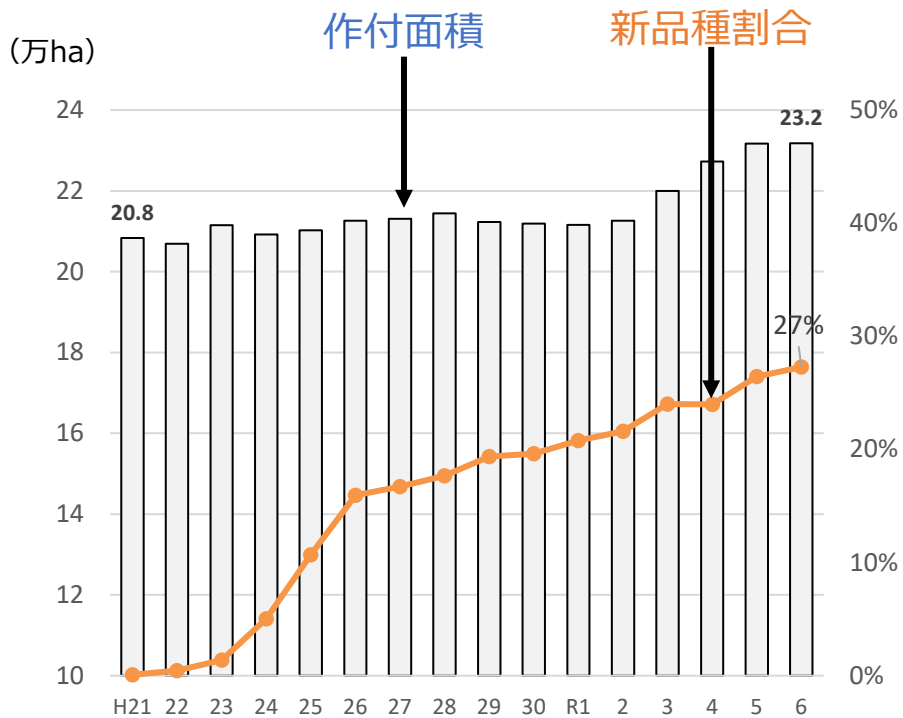
注：括弧内の育成年は出願公表を行った年

実需者が求める品質の確保と安定供給の実現に向けて、生産・実需が連携し
開発後の普及を見据えた品種開発の体制整備が必要

生産拡大に向けた品種転換

- 小麦栽培において、平成20年以降に育成された品種の導入が進んでおり、令和6年産の小麦作付面積の約27%を新品種が占めている。
- 実需者が求める数量・品質等の実現に向けて、新品種の導入を進めることが重要。

○ 小麦の新品種の作付割合



資料：農林水産省穀物課調べ

○ 小麦の品種別作付面積 (上位10品種)

| 平成21年 | | | | 令和6年 | | | |
|---------|------|---------|-------|---------|------|---------|-------|
| 小麦 | 育成年次 | 作付面積 | 作付比率 | 小麦 | 育成年次 | 作付面積 | 作付比率 |
| ホクシン | H7 | 96,373 | 46.3 | きたほなみ | H19 | 89,035 | 38.4 |
| 農林61号 | S19 | 29,968 | 14.4 | ゆめちから | H20 | 22,726 | 9.8 |
| シロガネコムギ | S49 | 18,058 | 8.7 | シロガネコムギ | S49 | 16,221 | 7.0 |
| チクゴイズミ | H6 | 11,207 | 5.4 | 春よ恋 | H11 | 15,256 | 6.6 |
| きたほなみ | H19 | 6,888 | 3.3 | さとのそら | H21 | 14,806 | 6.4 |
| 春よ恋 | H11 | 6,500 | 3.1 | チクゴイズミ | H6 | 11,955 | 5.2 |
| イワイノダイチ | H11 | 4,282 | 2.1 | あやひかり | H12 | 6,996 | 3.0 |
| ニシノカオリ | H11 | 2,853 | 1.4 | きぬあかり | H21 | 5,424 | 2.3 |
| ナンブコムギ | S26 | 2,552 | 1.2 | ミナミノカオリ | H16 | 4,823 | 2.1 |
| シラネコムギ | S61 | 2,242 | 1.1 | びわほなみ | H29 | 3,814 | 1.6 |
| 上位10品種計 | | 180,923 | 86.9 | 上位10品種計 | | 191,056 | 82.4 |
| 作付面積 | | 208,300 | 100.0 | 作付面積 | | 231,800 | 100.0 |

資料：農林水産省穀物課調べ

注：赤字は平成20年以降に開発された品種

麦の国産化に向けた課題

これまでは・・・

国産小麦は輸入麦に混ぜて使用されることが主流。

近年は・・・

「きたほなみ」や「春よ恋」などの外国産と比較して引けをとらない品質の品種が育成され、国産小麦のみでの商品化が可能となった。

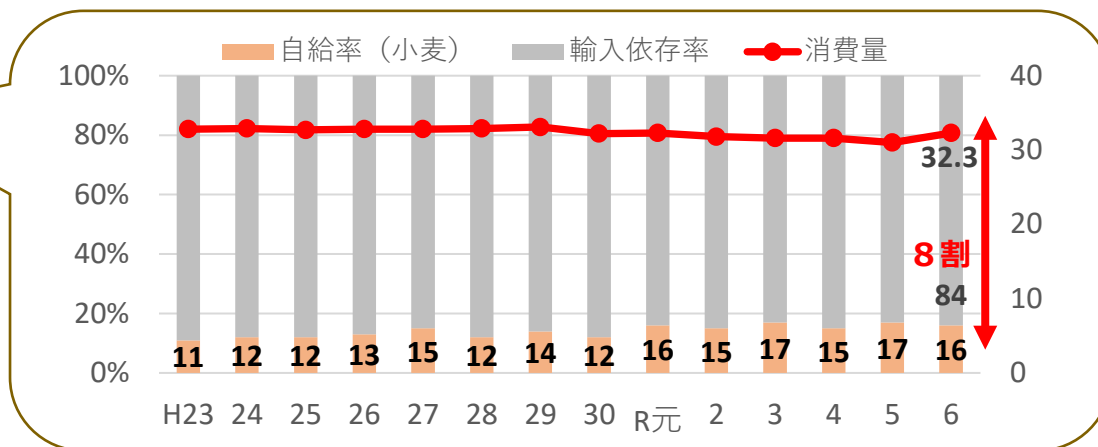
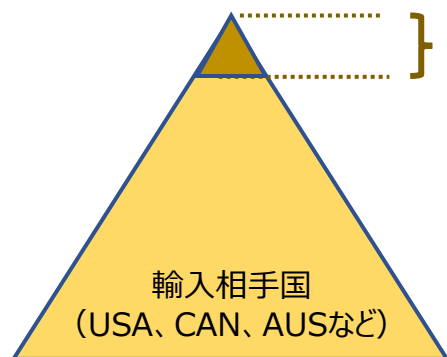


国産化を更に進めるためには・・・

国内需要の8割を占める外国産のシェアを奪うことが重要！

小麦の国内消費量の8割は外国産が占める。

日本向けに品質の良い麦を
安定的に輸出



麦の国産化に向けた現状と対策

- 国産小麦は、品種、銘柄別の出荷となっていることや天候や生産規模などの違いにより、ブレンドにより品質を確保している輸入小麦と比べると、品質や供給量に年産変動があり、製粉企業や食品企業などの**実需者が、輸入小麦から国産小麦に切り替える際の課題となっている。**
- 一方で、国産小麦の品質については、生産技術や品種開発等により向上しており、近年、生産技術の向上や品種改良が進んだことから、実需者が求める品質に見合った小麦の生産が実現しつつある。
- 今後は、さらなる品質・収量向上のため**効果的な営農技術の導入、産地における品質の把握、ストック機能の強化、実需から求められる品種の導入**など、引き続き、品質・供給量の安定化のための対策を**総合的に推進**。

実需者（製粉企業、食品メーカー等）

- 供給量、品質及び価格が、年産、産地によってばらつきがあることに問題意識を持っている



産地

- 供給量や求められる品質については、用途や実需者によって様々であるため、対応が難しい

産地における取組の方向性

<安定的な供給量・品質の確保>

○効果的な営農技術の導入

排水対策技術の導入や作付けの団地化等により安定供給体制を構築するとともに、用途に応じた適期追肥の実施など、**品質向上・収量安定のための効果的な営農技術の導入**を進める。

○産地における品質の把握

品質の向上のため、集荷の際に水分率やタンパク質含有率などの品質に係る数値の計測が重要。**産地において品質を把握し、データに基づいた肥培管理を行うこと等により高品質な小麦生産**を実現する。

○調整保管機能の強化

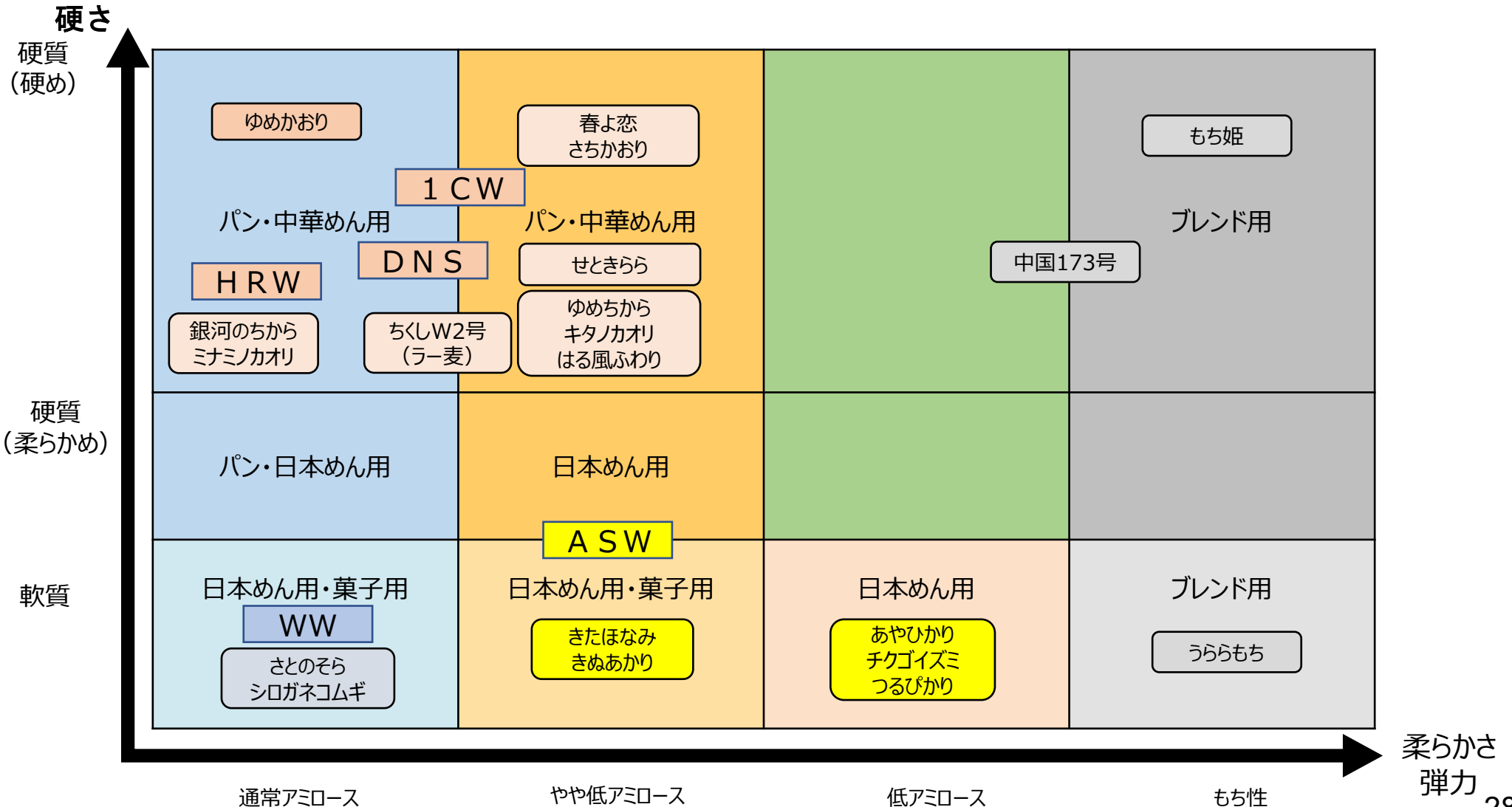
安定供給のため、豊作時にストックし不作時に供給するなど、豊凶変動に備えた調整機能を有する**保管施設の整備等**を進める。

○需要の多い品種の導入

国内育成品種は小麦だけでも70種類以上あり、需要とのバランスから過剰供給となる場合もあることから、**導入品種の選定を行う場合には、実需との対話など行いながら進める。**

小麦の供給量の安定化・品質の平準化

- 国産小麦は約70品種流通しており、少量しか生産されていない品種も多い。
- 都道府県ごと、品種ごとに流通していることから、輸入小麦のようなまとまったロットと品質の確保が難しい。
- 輸入小麦から国産小麦への切り替えを進めるためには、①輸入小麦の特性に近い品種や、②実需者の要望に応じ、タンパク、アミロース含有量などの品質に着目した生産に集約化する必要がある。

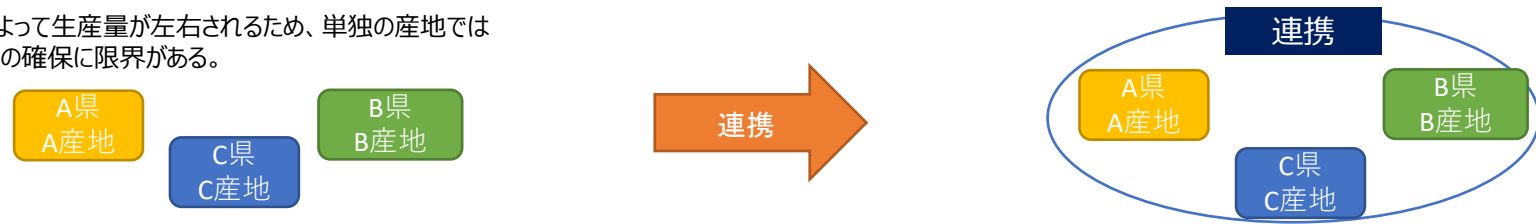


小麦の供給量の安定化・品質の平準化

- 国産麦に対する実需者の需要に対応するためには、安定的に供給し、品質を平準化する必要。
- 単独の産地で対応するには限界があるため、**複数の産地が連携**することにより、**安定的な供給量を確保**。

供給量の確保

天候によって生産量が左右されるため、単独の産地では供給量の確保に限界がある。



- 品質関連遺伝子型のセット（イデオタイプ）を都道府県間で共有し、それぞれのタイプに該当する系統・品種を生産。
- **同じタイプ**であれば、品質特性は一定の範囲内となるためブレンドしやすくなり、**均質化が可能**。

品質の平準化

| タイプ (銘柄) | 用途 | グルテン特性 | デンプン特性 | | タンパク 質含量 | 該当する品種候補 | | | 該当する輸 入銘柄 |
|-------------|-------------------|----------|--------|-----------|-------------|---------------------|------------------------------|-------------------------|--------------|
| | | | 硬軟質 | アミロー ス | | 北海道 | 東日本 | 西日本 | |
| 1 | ブレンド・中華麺 | 硬めの超強力 | 硬質 | やや低 | >13% | みのりのちから | | | 無し |
| | | 強めの超強力 | | | | ゆめちから | | | |
| 2 | パン・中華麺 | 硬めの超強力 | 硬質 | 通常 | 11~12% | | 銀河のちから, こしちから, ハナチカラ, ハナマンテン | | HRW |
| 3 | パン・中華麺 | 強力 | 硬質 | 通常 | 12~14% | | ゆめかおり, ユメシホウ, 夏黄金 | | 1CW, DNS |
| | | 弱めの強力 | | | | | ミナミノカオリ | 無し | |
| 4 | パン・中華麺 (もちもち系) | 強力 | 硬質 | やや低 | 12~14% | 春よ恋, はるきらり | | せときらら, はる風ふわり, はるみずき | 無し |
| | | 弱めの強力 | | | | キタノカオリ, つるきち, ハルユタカ | さちかおり, 長崎W2号 | | |
| 5 | 中華麺 | 強めの中力 | 硬質 | 通常 | >12% | | タマイズミR, ナンプコムギ | ちくしW2号 (ラー麦) | APH並 |
| 6 | うどん (ややもちもち系) | 中力~強めの中力 | 軟質 | やや低 | 9~11% | きたほなみ | きぬあかり, きぬの波 | さぬきの夢2009, ふくほのか, びわほなみ | ASW |
| 7 | うどん (もちもち系) | 中力~強めの中力 | 軟質 | 低 | 8~11% | | あやひかり, ネバリゴシ | チクゴイズミ | 無し |
| 8 | うどん・菓子汎用 | 中力 | 軟質 | 通常 | 6~11% | | しろゆたか, ゆめきらり | 農林61号, ふくさやか | 無し |
| | | 弱めの中力 | | | | | さとのそら, ゆきはるか | シロガネコムギ | |
| 9 | 菓子 | 薄力 | 軟質 | 通常 | 6~8% | 北見95号 | | | クラブ小麦 |

資料：農研機構西日本農業研究センター 池田達哉氏「小麦の品質に関する遺伝的特性と今後の品質開発の方向性」製粉振興 617(3):14-23 (2022) を基に同氏の監修により作成

小麦・大豆の国産化の推進

令和8年度予算概算決定額 36百万円（前年度 35百万円）

〔令和7年度補正予算額 7,008百万円〕

<対策のポイント>

産地と実需が連携して行う**小麦・大豆の国産化を推進**するため、**施肥・防除体系の構築等による生産性向上や増産**を支援するとともに、**国産小麦・大豆の安定供給**に向けた**ストックセンター等の再編集約・合理化**や**民間主体の一定期間の保管等**、**新たな生産・流通モデルづくり**や更なる**利用拡大**に向けた**新商品開発等**を支援します。

<事業目標> [令和5年度→令和12年度まで]

- 小麦生産量の増加（109万t→137万t）
- 大麦・はだか麦生産量の増加（23万t→26万t）
- 大豆生産量の増加（26万t→39万t）
- 国産小麦・大豆の保管数量（小麦：28,774 t→90,000t、大豆：6,258t→25,500t）

<事業の内容>

1. 国産小麦・大豆供給力強化総合対策 36百万円（前年度35百万円） 〔令和7年度補正予算〕5,008百万円

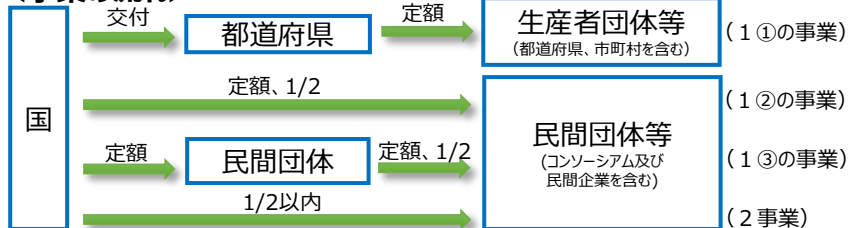
- ① **生産対策（麦類生産技術向上事業）**
麦の生産性向上を目指す産地に対し、**施肥・防除体系の構築等**を支援します。
- ② **流通対策**
ア 小麦・大豆供給円滑化推進事業
国産小麦・大豆を一定期間保管するなど、安定供給体制を図る取組を支援します。
イ 新たな生産・流通モデルづくり事業
麦の品質向上や極多収大豆の種子生産に加え、新品種の導入、フレコンの本格導入、実需者の加工試験など、**新たな生産・流通モデルづくり**を支援します。
- ③ **消費対策（小麦・大豆利用拡大事業）**
国産小麦・大豆の利用拡大に取り組む食品製造事業者等に対し、**新商品開発等**を支援します。

2. 新基本計画実装・農業構造転換支援事業のうち 小麦・大豆ストックセンターの再編集約・合理化

〔令和7年度補正予算〕2,000百万円

国産小麦・大豆の安定供給を後押しするため、**ストックセンター等の再編集約・合理化**を支援します。

<事業の流れ>



【お問い合わせ先】
（1①、1②ア(大豆)、1②イ、2の事業）
（1②ア(麦)、1③の事業）

<事業イメージ>

①生産対策

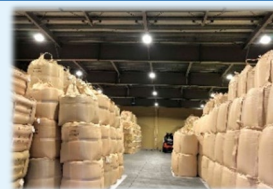


麦の施肥・防除体系の構築
（定額（2,000円/10a以内））



生産性向上の推進（定額）

②流通対策



- ・ストックセンター等の整備（1/2以内）
- ・一定期間の保管等（定額、1/2以内）
- ・新たなモデルの実証（定額、1/2以内）

③消費対策



新商品の開発等（定額、1/2以内）

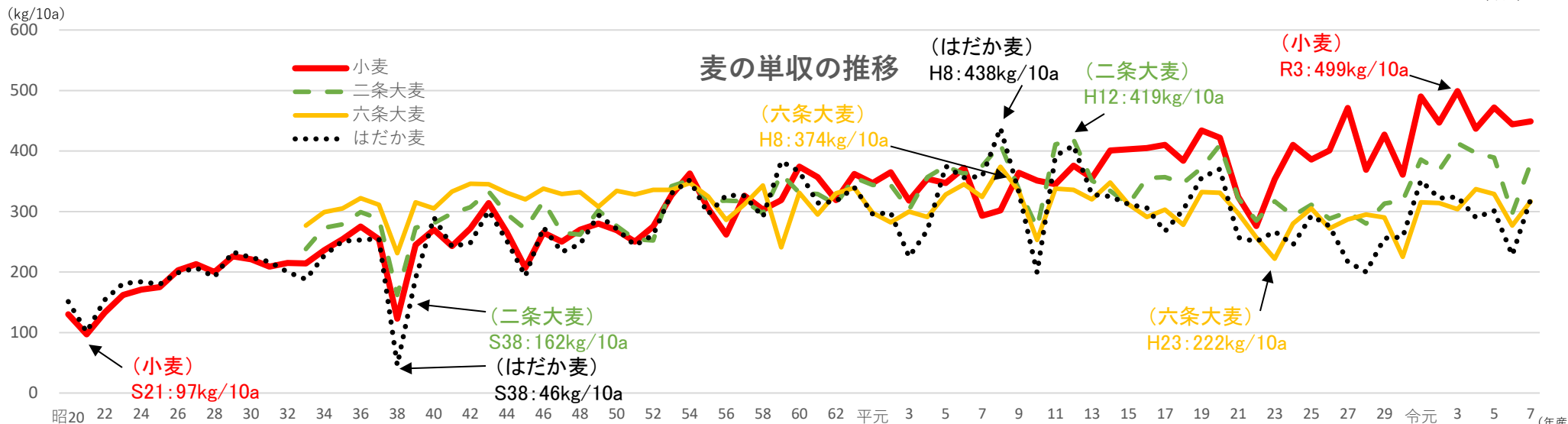
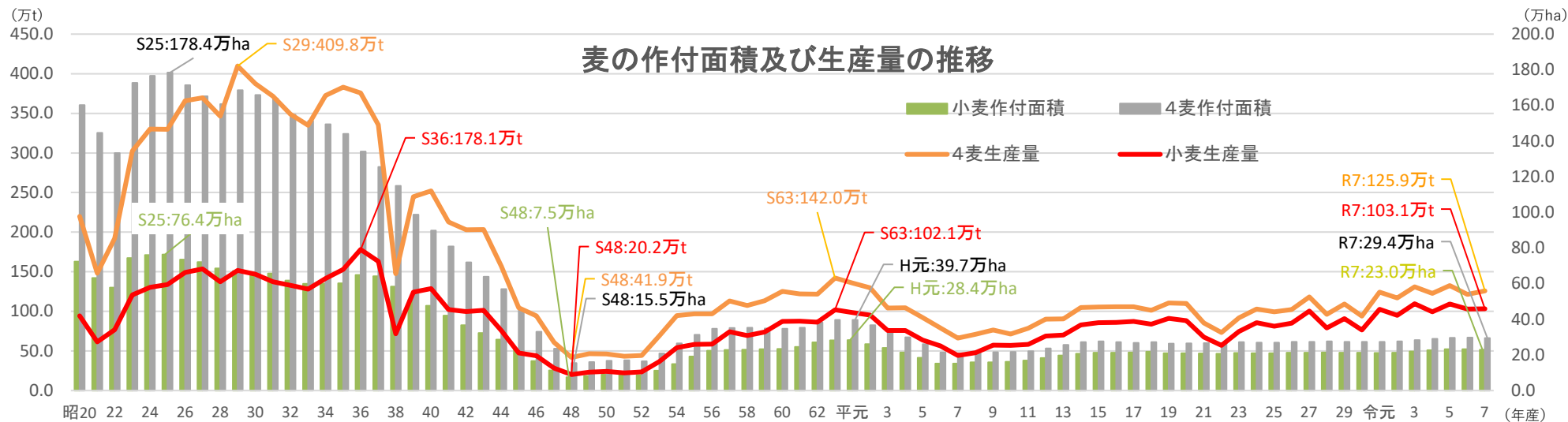
小麦・大豆の国産化を一層推進

農産局穀物課 (03-6744-2108)
農産局貿易業務課 (03-6744-9531)

參考資料

麦の長期的な作付面積・生産量・単収の推移

- 昭和30年代までは米の自給率が低かったこともあり、麦の生産量は最大で約410万トン(昭和29年度)、作付面積は最大で約178万ha(昭和25年度)あった。
- 作付面積は、昭和25年をピークに昭和48年まで減少したものの、平成5年以降はほぼ横ばいで推移。
- 近年では単収の増加傾向に伴い、生産量も増加していることから、今後、更なる増産を図るためには単収の向上を図る必要がある。



全国主産地の麦種別作付面積

- 北海道では、小麦の作付けがほとんどを占めており、北関東、東海、近畿、九州地方においても小麦の作付けが多い。
- 大麦については、ビール用二条大麦の主産地である栃木県、佐賀県において作付けが多い。

全国主要産地の麦種別作付面積

(単位：ha)



小麦の作付面積・生産量・単収（都道府県別）

- 令和7年産の作付面積は全国では229,600haであり、北海道（133,400ha）、福岡県（15,500ha）、佐賀県（11,700ha）の順に多い。
- 平年単収については、全国で458kg/10aであり、北海道（525kg/10a）、愛知県（518kg/10a）、福岡県（422kg/10a）の順に高い。

| 都道府県 | 作付面積 | | 収穫量 | | 単収 | | 平年単収 | |
|------|---------|----|---------|----|----------|----|----------|----|
| | (ha) | 順位 | (t) | 順位 | (kg/10a) | 順位 | (kg/10a) | 順位 |
| 北海道 | 133,400 | 1 | 671,900 | 1 | 504 | 2 | 525 | 1 |
| 青森 | 713 | 22 | 1,870 | 22 | 262 | 31 | 248 | 31 |
| 岩手 | 3,710 | 11 | 9,200 | 13 | 248 | 34 | 222 | 34 |
| 宮城 | 1,170 | 19 | 5,220 | 17 | 446 | 3 | 407 | 7 |
| 秋田 | 272 | 27 | 911 | 27 | 335 | 16 | 290 | 25 |
| 山形 | 167 | 32 | 362 | 31 | 217 | 38 | 235 | 33 |
| 福島 | 503 | 25 | 1,270 | 24 | 252 | 32 | 244 | 32 |
| 茨城 | 4,670 | 10 | 13,900 | 10 | 298 | 22 | 300 | 24 |
| 栃木 | 2,480 | 14 | 9,350 | 12 | 377 | 9 | 352 | 12 |
| 群馬 | 5,270 | 9 | 23,200 | 7 | 440 | 4 | 413 | 5 |
| 埼玉 | 5,550 | 7 | 20,900 | 8 | 377 | 9 | 386 | 8 |
| 千葉 | 757 | 21 | 2,590 | 21 | 342 | 15 | 313 | 19 |
| 東京都 | 9 | 45 | 24 | 44 | 267 | 29 | 196 | 38 |
| 神奈川県 | 32 | 42 | 78 | 42 | 244 | 35 | 249 | 30 |
| 山梨 | 63 | 40 | 194 | 37 | 308 | 20 | 309 | 22 |
| 長野 | 2,180 | 16 | 7,040 | 16 | 323 | 19 | 314 | 18 |
| 静岡県 | 520 | 24 | 1,110 | 26 | 213 | 39 | 252 | 29 |
| 新潟 | 193 | 29 | 533 | 29 | 276 | 26 | 255 | 28 |
| 富山 | 63 | 39 | 147 | 39 | 233 | 37 | 184 | 40 |
| 石川 | 92 | 35 | 193 | 38 | 210 | 40 | 190 | 39 |
| 福井 | 251 | 28 | 771 | 28 | 307 | 21 | 201 | 36 |
| 岐阜 | 3,710 | 11 | 13,100 | 11 | 353 | 12 | 333 | 15 |
| 愛知県 | 6,050 | 6 | 35,000 | 4 | 579 | 1 | 518 | 2 |
| 三重 | 7,170 | 4 | 25,200 | 5 | 351 | 13 | 338 | 13 |

| 都道府県 | 作付面積 | | 収穫量 | | 単収 | | 平年単収 | |
|------|---------|----|-----------|----|----------|----|----------|----|
| | (ha) | 順位 | (t) | 順位 | (kg/10a) | 順位 | (kg/10a) | 順位 |
| 滋賀 | 6,810 | 5 | 23,900 | 6 | 351 | 13 | 333 | 15 |
| 京都 | 193 | 29 | 313 | 33 | 162 | 43 | 181 | 41 |
| 大阪 | 1 | 46 | 1 | 46 | 165 | 42 | 140 | 46 |
| 兵庫 | 1,670 | 17 | 4,910 | 18 | 294 | 24 | 259 | 27 |
| 奈良 | 158 | 33 | 422 | 30 | 267 | 29 | 275 | 26 |
| 和歌山 | 16 | 43 | 43 | 43 | 269 | 28 | 150 | 44 |
| 鳥取 | 90 | 36 | 213 | 36 | 237 | 36 | 313 | 19 |
| 島根 | 71 | 37 | 110 | 40 | 155 | 44 | 181 | 41 |
| 岡山 | 1,050 | 20 | 4,540 | 20 | 432 | 5 | 409 | 6 |
| 広島 | 178 | 31 | 342 | 32 | 192 | 41 | 198 | 37 |
| 山口 | 1,660 | 18 | 4,590 | 19 | 277 | 25 | 338 | 13 |
| 徳島 | 70 | 38 | 227 | 35 | 324 | 18 | 310 | 21 |
| 香川 | 2,240 | 15 | 8,760 | 14 | 391 | 7 | 373 | 10 |
| 愛媛 | 321 | 26 | 1,170 | 25 | 364 | 11 | 380 | 9 |
| 高知 | 1 | 46 | 1 | 46 | 113 | 47 | 146 | 45 |
| 福岡 | 15,500 | 2 | 64,500 | 2 | 416 | 6 | 422 | 3 |
| 佐賀 | 11,700 | 3 | 45,500 | 3 | 389 | 8 | 414 | 4 |
| 長崎 | 619 | 23 | 1,840 | 23 | 297 | 23 | 301 | 23 |
| 熊本 | 5,310 | 8 | 17,500 | 9 | 330 | 17 | 354 | 11 |
| 大分 | 2,710 | 13 | 7,330 | 15 | 270 | 27 | 315 | 17 |
| 宮崎 | 122 | 34 | 304 | 34 | 249 | 33 | 211 | 35 |
| 鹿児島 | 63 | 40 | 93 | 41 | 147 | 45 | 180 | 43 |
| 沖縄 | 12 | 44 | 14 | 45 | 117 | 46 | 132 | 47 |
| 全 国 | 229,600 | - | 1,031,000 | - | 449 | - | 458 | - |

資料：作物統計（令和7年産）

「平年単収」は、原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値

二条大麦の作付面積・生産量・単収（都道府県別）

- 令和7年産の作付面積は全国では40,300haであり、佐賀県（10,300ha）、栃木県（8,190ha）、福岡県（6,580ha）の順に多い。
- 平年単収については、全国で372kg/10aであり、滋賀県（412kg/10a）、佐賀県（411kg/10a）、北海道（403kg/10a）の順に高い。

| 都道府県 | 作付面積 | | 収穫量 | | 単収 | | 平年単収 | |
|------|-------|----|--------|----|----------|----|----------|----|
| | (ha) | 順位 | (t) | 順位 | (kg/10a) | 順位 | (kg/10a) | 順位 |
| 北海道 | 1,760 | 7 | 5,250 | 8 | 298 | 19 | 403 | 3 |
| 青森 | 0 | 37 | 0 | 37 | 100 | 36 | ... | - |
| 岩手 | 5 | 28 | 12 | 29 | 240 | 25 | 292 | 19 |
| 宮城 | 15 | 24 | 68 | 22 | 451 | 4 | 369 | 9 |
| 秋田 | - | - | - | - | - | - | 199 | 28 |
| 山形 | 1 | 33 | 1 | 34 | 134 | 34 | - | - |
| 福島 | 20 | 23 | 42 | 25 | 212 | 31 | 172 | 29 |
| 茨城 | 829 | 10 | 1,830 | 11 | 221 | 29 | 239 | 25 |
| 栃木 | 8,190 | 2 | 31,000 | 2 | 379 | 12 | 375 | 8 |
| 群馬 | 1,640 | 8 | 6,970 | 6 | 425 | 7 | 353 | 11 |
| 埼玉 | 710 | 11 | 2,650 | 10 | 373 | 13 | 379 | 7 |
| 千葉 | 10 | 26 | 11 | 30 | 110 | 35 | 100 | 35 |
| 東京都 | 1 | 33 | 2 | 33 | 200 | 32 | 203 | 27 |
| 神奈川県 | 0 | 37 | 0 | 37 | 50 | 38 | 144 | 31 |
| 山梨 | 1 | 33 | 1 | 34 | 55 | 37 | ... | - |
| 長野 | 15 | 24 | 44 | 24 | 294 | 21 | 248 | 24 |
| 静岡県 | 37 | 21 | 95 | 21 | 256 | 23 | 205 | 26 |
| 新潟 | 4 | 30 | 17 | 28 | 400 | 9 | ... | - |
| 富山 | 2 | 31 | 6 | 31 | 230 | 27 | 146 | 30 |
| 石川 | - | - | - | - | - | - | 104 | 34 |
| 福井 | 1 | 33 | 3 | 32 | 479 | 2 | ... | - |
| 岐阜 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 愛知県 | 5 | 28 | 23 | 26 | 460 | 3 | 383 | 5 |
| 三重 | - | - | - | - | - | - | - | - |

| 都道府県 | 作付面積 | | 収穫量 | | 単収 | | 平年単収 | |
|------|--------|----|---------|----|----------|----|----------|----|
| | (ha) | 順位 | (t) | 順位 | (kg/10a) | 順位 | (kg/10a) | 順位 |
| 滋賀 | 62 | 20 | 314 | 17 | 506 | 1 | 412 | 1 |
| 京都 | 74 | 18 | 220 | 19 | 297 | 20 | 263 | 22 |
| 大阪 | - | - | - | - | - | - | ... | - |
| 兵庫 | x | - | x | - | x | - | 110 | 33 |
| 奈良 | - | - | - | - | - | - | ... | - |
| 和歌山 | - | - | - | - | - | - | ... | - |
| 鳥取 | 81 | 17 | 262 | 18 | 323 | 16 | 306 | 15 |
| 島根 | 411 | 12 | 1,000 | 13 | 243 | 24 | 303 | 16 |
| 岡山 | 2,160 | 5 | 8,300 | 5 | 384 | 10 | 381 | 6 |
| 広島 | 182 | 16 | 329 | 16 | 181 | 33 | 117 | 32 |
| 山口 | 377 | 13 | 841 | 15 | 223 | 28 | 284 | 21 |
| 徳島 | 27 | 22 | 59 | 23 | 220 | 30 | 285 | 20 |
| 香川 | 322 | 15 | 1,440 | 12 | 447 | 5 | 329 | 13 |
| 愛媛 | 1 | 33 | 1 | 34 | 287 | 22 | ... | - |
| 高知 | 6 | 27 | 23 | 26 | 383 | 11 | 362 | 10 |
| 福岡 | 6,580 | 3 | 26,800 | 3 | 407 | 8 | 386 | 4 |
| 佐賀 | 10,300 | 1 | 44,500 | 1 | 432 | 6 | 411 | 2 |
| 長崎 | 1,210 | 9 | 4,290 | 9 | 355 | 14 | 342 | 12 |
| 熊本 | 2,800 | 4 | 8,640 | 4 | 309 | 17 | 297 | 18 |
| 大分 | 2,000 | 6 | 6,810 | 7 | 341 | 15 | 303 | 16 |
| 宮崎 | 68 | 19 | 206 | 20 | 303 | 18 | 309 | 14 |
| 鹿児島 | 373 | 14 | 870 | 14 | 233 | 26 | 251 | 23 |
| 沖縄 | 2 | 31 | 1 | 34 | 50 | 38 | 81 | 36 |
| 全国 | 40,300 | - | 152,900 | - | 379 | - | 372 | - |

資料：作物統計（令和7年産）

「平年単収」は、原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値

六条大麦の作付面積・生産量・単収（都道府県別）

- 令和7年産の作付面積は全国では18,600haであり、福井県（4,900ha）、富山県（3,560ha）、石川県（1,660ha）の順に多い。
- 平年単収については、全国で308kg/10aであり、北海道（403kg/10a）、愛知県（399kg/10a）、埼玉県（397kg/10a）の順に高い。

| 都道府県 | 作付面積 | | 収穫量 | | 単収 | | 平年単収 | |
|------|-------|----|--------|----|----------|----|----------|----|
| | (ha) | 順位 | (t) | 順位 | (kg/10a) | 順位 | (kg/10a) | 順位 |
| 北海道 | 21 | 22 | 85 | 19 | 405 | 5 | 403 | 1 |
| 青森 | 94 | 14 | 334 | 15 | 355 | 7 | 386 | 4 |
| 岩手 | 85 | 16 | 199 | 17 | 234 | 18 | 257 | 21 |
| 宮城 | 1,460 | 6 | 4,990 | 5 | 342 | 9 | 345 | 8 |
| 秋田 | - | - | - | - | - | - | ... | - |
| 山形 | 13 | 23 | 27 | 23 | 208 | 20 | 139 | 30 |
| 福島 | 8 | 24 | 16 | 25 | 200 | 22 | 195 | 25 |
| 茨城 | 1,110 | 7 | 2,540 | 7 | 229 | 19 | 230 | 22 |
| 栃木 | 1,610 | 4 | 3,930 | 6 | 244 | 16 | 287 | 17 |
| 群馬 | 487 | 10 | 1,630 | 10 | 335 | 12 | 335 | 10 |
| 埼玉 | 137 | 13 | 556 | 11 | 406 | 4 | 397 | 3 |
| 千葉 | 36 | 19 | 126 | 18 | 350 | 8 | 328 | 12 |
| 東京都 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 神奈川県 | - | - | - | - | - | - | 324 | 13 |
| 山梨 | 44 | 18 | 78 | 20 | 177 | 26 | 218 | 24 |
| 長野 | 702 | 8 | 2,190 | 8 | 312 | 13 | 383 | 5 |
| 静岡 | 0 | 32 | ... | - | ... | - | 136 | 31 |
| 新潟 | 190 | 12 | 458 | 13 | 241 | 17 | 276 | 20 |
| 富山 | 3,560 | 2 | 10,000 | 2 | 281 | 15 | 311 | 14 |
| 石川 | 1,660 | 3 | 5,610 | 4 | 338 | 11 | 345 | 8 |
| 福井 | 4,900 | 1 | 16,700 | 1 | 340 | 10 | 284 | 18 |
| 岐阜 | 230 | 11 | 465 | 12 | 202 | 21 | 195 | 25 |
| 愛知 | 94 | 14 | 442 | 14 | 470 | 1 | 399 | 2 |
| 三重 | 59 | 17 | 244 | 16 | 414 | 3 | 332 | 11 |

| 都道府県 | 作付面積 | | 収穫量 | | 単収 | | 平年単収 | |
|------|--------|----|--------|----|----------|----|----------|----|
| | (ha) | 順位 | (t) | 順位 | (kg/10a) | 順位 | (kg/10a) | 順位 |
| 滋賀 | 1,470 | 5 | 6,200 | 3 | 422 | 2 | 361 | 6 |
| 京都 | - | - | - | - | - | - | ... | - |
| 大阪 | x | - | x | - | x | - | 90 | 35 |
| 兵庫 | 537 | 9 | 1,940 | 9 | 361 | 6 | 304 | 16 |
| 奈良 | - | - | - | - | - | - | ... | - |
| 和歌山 | 1 | 30 | 1 | 30 | 120 | 32 | 133 | 32 |
| 鳥取 | 0 | 32 | 1 | 30 | 133 | 29 | 106 | 34 |
| 島根 | 8 | 24 | 10 | 26 | 125 | 31 | 154 | 29 |
| 岡山 | 1 | 30 | 1 | 30 | 178 | 24 | 155 | 28 |
| 広島 | 29 | 20 | 50 | 22 | 173 | 27 | 227 | 23 |
| 山口 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 徳島 | 2 | 28 | 2 | 29 | 133 | 29 | 193 | 27 |
| 香川 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 愛媛 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 高知 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 福岡 | x | - | x | - | x | - | ... | - |
| 佐賀 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 長崎 | 28 | 21 | 56 | 21 | 200 | 22 | ... | - |
| 熊本 | 2 | 28 | 4 | 28 | 178 | 24 | 282 | 19 |
| 大分 | 8 | 24 | 23 | 24 | 289 | 14 | 305 | 15 |
| 宮崎 | 5 | 27 | 8 | 27 | 161 | 28 | 117 | 33 |
| 鹿児島 | x | - | x | - | x | - | 352 | 7 |
| 沖縄 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 全国 | 18,600 | - | 59,000 | - | 317 | - | 308 | - |

資料：作物統計（令和7年産）

「平年単収」は、原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値

はだか麦の作付面積・生産量・単収（都道府県別）

- 令和7年産の作付面積は全国では5,160haであり、愛媛県（1,740ha）、大分県（841ha）、香川県（578ha）の順に多い。
- 平年単収については、全国で299kg/10aであり、滋賀県（382kg/10a）、佐賀県（374kg/10a）、福岡県（346kg/10a）の順に高い。

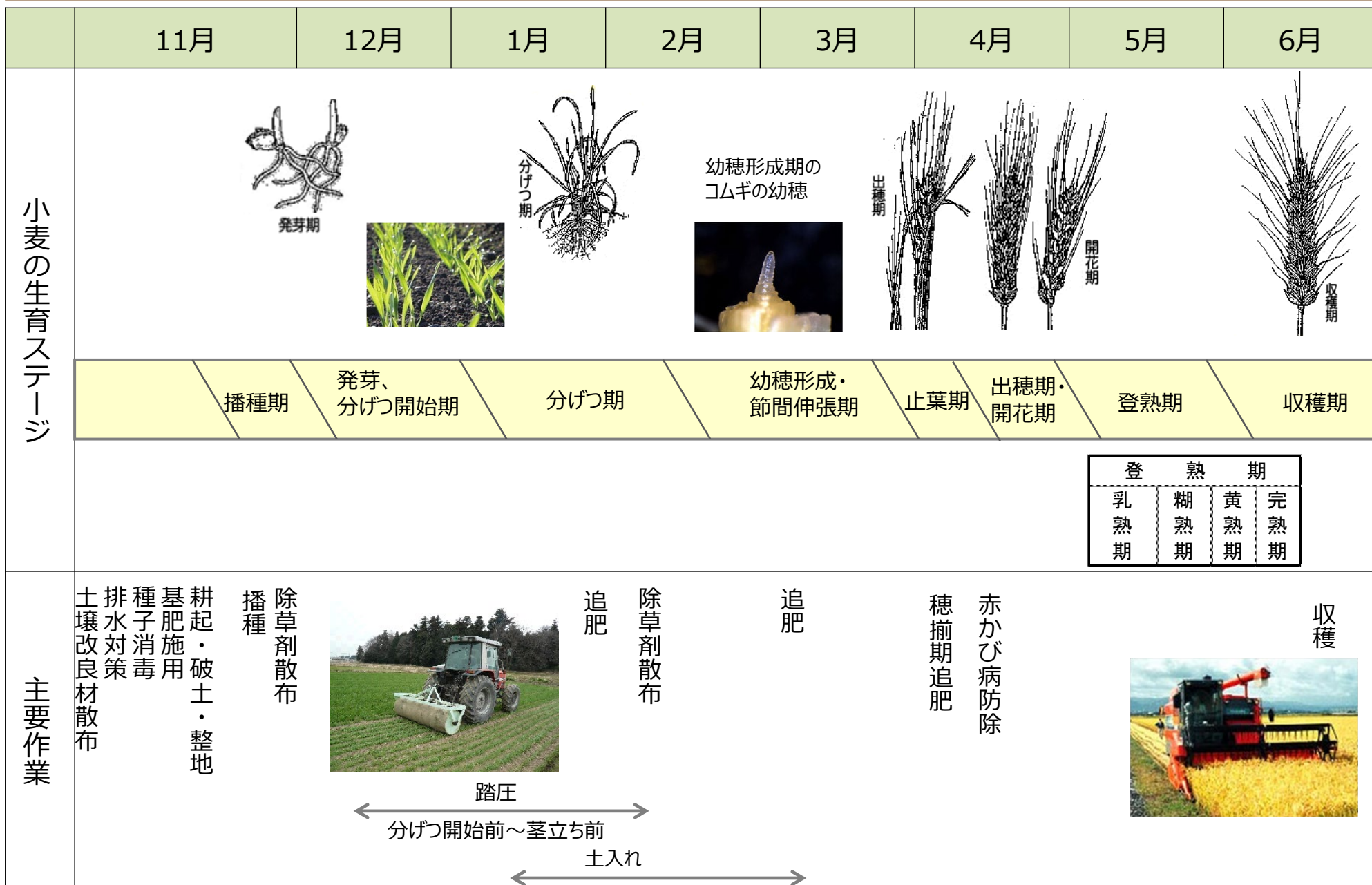
| 都道府県 | 作付面積 | | 収穫量 | | 単収 | | 平年単収 | |
|------|------|----|-----|----|----------|----|----------|----|
| | (ha) | 順位 | (t) | 順位 | (kg/10a) | 順位 | (kg/10a) | 順位 |
| 北海道 | 57 | 14 | 154 | 14 | 270 | 14 | 251 | 15 |
| 青森 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 岩手 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 宮城 | - | - | - | - | - | - | ... | - |
| 秋田 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 山形 | - | - | - | - | - | - | 120 | 34 |
| 福島 | 0 | 30 | 1 | 28 | 167 | 26 | 134 | 31 |
| 茨城 | 187 | 7 | 426 | 7 | 228 | 17 | 264 | 13 |
| 栃木 | 19 | 18 | 55 | 17 | 288 | 13 | 270 | 11 |
| 群馬 | 1 | 24 | 4 | 23 | 380 | 4 | 266 | 12 |
| 埼玉 | 98 | 11 | 336 | 11 | 343 | 6 | 311 | 6 |
| 千葉 | 1 | 24 | 1 | 29 | 100 | 29 | 264 | 13 |
| 東京都 | 1 | 24 | 1 | 29 | 100 | 29 | 250 | 16 |
| 神奈川県 | 1 | 24 | 3 | 25 | 327 | 9 | 210 | 19 |
| 山梨 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 長野 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 静岡 | 1 | 24 | 2 | 26 | 200 | 21 | 187 | 25 |
| 新潟 | 0 | 30 | 0 | 29 | 100 | 29 | - | - |
| 富山 | x | - | x | - | x | - | 167 | 28 |
| 石川 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 福井 | - | - | - | - | - | - | ... | - |
| 岐阜 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 愛知 | 7 | 21 | 24 | 19 | 343 | 6 | 233 | 17 |
| 三重 | 11 | 19 | 23 | 20 | 209 | 19 | 287 | 10 |

| 都道府県 | 作付面積 | | 収穫量 | | 単収 | | 平年単収 | |
|------|-------|----|--------|----|----------|----|----------|----|
| | (ha) | 順位 | (t) | 順位 | (kg/10a) | 順位 | (kg/10a) | 順位 |
| 滋賀 | 75 | 13 | 304 | 12 | 405 | 2 | 382 | 1 |
| 京都 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 大阪 | - | - | - | - | - | - | 122 | 33 |
| 兵庫 | 181 | 8 | 418 | 8 | 231 | 16 | 192 | 24 |
| 奈良 | - | - | - | - | - | - | 165 | 29 |
| 和歌山 | x | - | x | - | x | - | 111 | 35 |
| 鳥取 | 3 | 23 | 4 | 23 | 133 | 27 | 198 | 20 |
| 島根 | 20 | 17 | 65 | 16 | 323 | 11 | 299 | 9 |
| 岡山 | 228 | 5 | 946 | 5 | 415 | 1 | 335 | 4 |
| 広島 | 38 | 16 | 48 | 18 | 127 | 28 | 198 | 20 |
| 山口 | 201 | 6 | 367 | 10 | 183 | 23 | 198 | 20 |
| 徳島 | 5 | 22 | 10 | 22 | 200 | 21 | 174 | 27 |
| 香川県 | 578 | 3 | 2,230 | 3 | 386 | 3 | 309 | 7 |
| 愛媛 | 1,740 | 1 | 5,700 | 1 | 328 | 8 | 325 | 5 |
| 高知 | 1 | 24 | 2 | 26 | 202 | 20 | 183 | 26 |
| 福岡 | 434 | 4 | 1,560 | 4 | 359 | 5 | 346 | 3 |
| 佐賀 | 151 | 9 | 452 | 6 | 299 | 12 | 374 | 2 |
| 長崎 | 85 | 12 | 183 | 13 | 215 | 18 | 196 | 23 |
| 熊本 | 138 | 10 | 368 | 9 | 267 | 15 | 228 | 18 |
| 大分 | 841 | 2 | 2,750 | 2 | 327 | 9 | 303 | 8 |
| 宮崎 | 11 | 19 | 19 | 21 | 174 | 25 | 132 | 32 |
| 鹿児島 | 40 | 15 | 70 | 15 | 176 | 24 | 157 | 30 |
| 沖縄 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 全国 | 5,160 | - | 16,500 | - | 320 | - | 299 | - |

資料：作物統計（令和7年産）

「平年単収」は、原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値

小麦の生育ステージと主要作業（都府県 秋まき小麦の例）



注：栽培時期は九州地方の事例 地域によっては、追肥回数など作業体系が異なる場合もある。

小麦の生育ステージと主要作業（北海道 秋まき小麦の例）

| | 9月 | 10月 | 11月 | 12～2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | | |
|--------------|---|-----|--|--|--|---|---|--|---|---|--|-----|
| 秋まき小麦の生育ステージ |  | |  |  |  |  | |  |  | | | |
| | 播種 | | 出芽期 (5～6葉まで生育) | | 越冬期 | | 起生期 | 幼穂形成期 | 止葉期 | 出穂期 開花期 | 登熟期 | 収穫期 |
| | <p>【参考】小麦の播種期（R7年産）</p> <p>十勝 : 9月23日（平年比遅1日）</p> <p>オホーツク : 9月22日（平年比±0日）</p> <p>全道 : 9月20日（平年比±0日）</p> <p>※上川など早い地域では9月中旬から播種</p> | | | | | | | <p>【参考】小麦の成熟期（R7年産）</p> <p>十勝 : 7月12日（平年比早8日）</p> <p>オホーツク : 7月14日（平年比早7日）</p> <p>全道 : 7月12日（平年比早6日）</p> | | | | |
| 主要作業 | 耕起・破土・整地 基肥施用 種子消毒 排水対策 土壌改良材散布 | | 除草剤散布 | | 雪腐病防除 | | 融雪剤散布 | 追肥・ (麦踏み) | 追肥 | 追肥 | 赤かび病防除 | 収穫 |
| |  | |  | |  | |  |  |  |  |   | |

注：北海道秋まき小麦（道東）の事例。追肥等の回数等の作業体系は地域によって異なる場合がある。播種及び成熟期の月日については、「農産技術だより」第26号より引用。

小麦の生育ステージと主要作業（北海道 春まき小麦の例）

| | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|--------------|--|----|-------------|--|---------------|---|--|-----|-----|-----|
| 春まき小麦の生育ステージ |  | | | | | | | | | |
| | <p style="text-align: center;"> 播種 出芽期 幼穂形成期・止葉期 出穂期・開花期 登熟期 収穫期 </p> | | | | | | | | | |
| | <p>【参考】小麦の播種期（R7年産） 全道：4月22日（平年比遅7日）</p> | | | | | <p>【参考】小麦の成熟期（R7年産） 全道：7月23日（平年比早6日）</p> | | | | |
| 主要作業 | <p>土壌改良材散布・排水対策</p> | | <p>元肥散布</p> | <p>除草剤散布</p>  | <p>赤かび病防除</p> | <p>収穫</p>   | <p>【参考】主な春まき小麦品種 「春よ恋（H11 出願公表）」 「はるきり（H19出願公表）」</p> | | | |

注：北海道春まき小麦の事例。播種及び成熟期の月日については、「農産技術だより」第26号より引用。

単収・品質の向上に向けた栽培技術の導入

- **排水性の向上**や**労働時間の短縮**につながる栽培技術の導入、田畑輪換による**地力低下への対策**等を推進することで、単収と品質を向上させ、実需者の求める麦づくりの実現を目指す。
- **個々の圃場環境にあわせた対策**を行える環境整備を進める。

湿害対策

水田の汎用化

- ・排水改良、暗渠排水等導入
- ・補助暗渠等
- ・区画整理



排水対策の強化

- ・補助暗渠施工、心土破砕等による排水性改善



排水対策の見直し・導入

- ・圃場の状況に即した排水対策の見直し、新規導入を呼びかけ

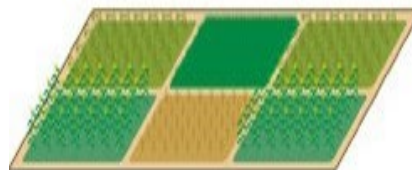


個々の農家のレベルアップ

- ・産地において品質を把握し、生産者に結果をフィードバックすることで営農指導等に活用する取組を推進。



水田においても単収・品質の向上を可能にする圃場環境を整備



土づくり

- ・牛ふん堆肥・ペレット堆肥等の実証的な活用による全国的な土づくりの展開
- ・科学的データに基づく土づくり



生産性の高い麦産地の育成

- 産地単位で①農地の集約・団地化、②スマート農業の導入、ICTの活用、③地域に適した品種の導入等に取り組むことで、作業効率の向上による作業時間の縮減、排水性の改善による収量・品質の向上、生産コストの低減といった生産性向上による効果を一層発現させることができる。
- こうした生産性向上に向けた取組を「産地単位」で行えるよう後押ししていく必要がある。

農地の集積・集約化、団地化の推進

地域計画との連携

- ・担い手への集積・集約と作付けの団地化



集約インセンティブの強化

- ・団地化等に取り組む産地への支援
- ・地域集積協力金の見直しによる農地集約のインセンティブを強化

団地の推進



地理空間情報の活用

- ・水田台帳と農地台帳等のデータ連携
- ・データを活用した現状評価と効率的集約を推進

地理情報のDB化・活用



精密な営農管理・生産性向上

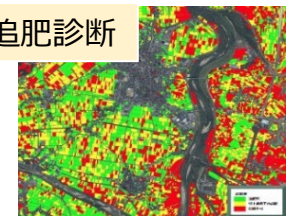
- ・スマート農業技術の導入実証の実施と導入モデル策定、横展開。



- ・シェアリング等により低コストでの導入を促す新たな農業支援サービスの実証

- ・生育予測システムや営農データの活用法の周知・現場への浸透

追肥診断



- ・地域ぐるみのデータを活用した営農体系への転換支援

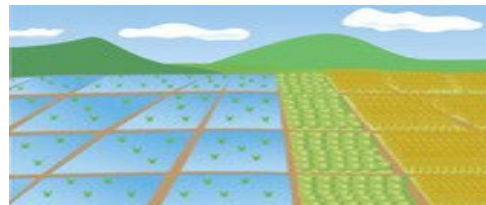
地域に適した品種導入

- ・地域に最適な稲・麦・大豆の品種の組合せと栽培法の確立実証の実施

センシング技術を活用し品種の組合せと栽培方法を最適化



水田地帯においても生産性の高い麦・大豆産地の造成



品種転換の状況

- 小麦については、北海道、関東、東海において、大麦は主産地において品種転換が進んでいる。
- 需要に応じた生産に向けて、実需者が求める品質等を実現できる品種への転換を進める必要がある。

近畿・中国・四国 23,860ha

日本用小麦

びわほなみ (2018年)
さぬきの夢2009 (2010年)
ふくさやか (2002年)
農林61号 (1944年)
ふくほのか (2006年)
シロガネコムギ (1974年)

パン・中華用小麦

せときらら (2013年)

二条大麦

サチホゴールド (2006年)

六条大麦

ファイバースノウ (2001年)

はだか麦

ハルヒメボシ (2012年)

九州 62,405ha

日本用小麦

シロガネコムギ (1974年)
チクゴイズミ (1994年)

パン・中華用小麦

ミナミノカオリ (2004年)
ちくしW2号 (2008年)
はるみずき (2018年)
はる風ふわり (2018年)

二条大麦

はるか二条 (2013年)
サチホゴールド (2006年)
はるしずく (2005年)
ニシノホシ (1999年)
はるさやか (2018年)

北陸 11,200ha

六条大麦

ファイバースノウ (2001年)
はねうまもち (2017年)

東海 18,000ha

日本用小麦

あやひかり (2000年)
きぬあかり (2009年)
さとのそら (2009年)
イワイノダイチ (1999年)

パン・中華用小麦

ニシノカオリ (1999年)
ゆめあかり (2013年)

関東 37,992ha

日本用小麦

さとのそら (2009年)
あやひかり (2000年)

醤油・中華用小麦

ゆめかおり (2009年)

二条大麦

ニューサチホゴールド (2015年)
アスカゴールド (2012年)

六条大麦

シュンライ (1990年)
カシマゴール (2010年)

北海道 133,755ha

日本用小麦

きたほなみ (2007年)

パン・中華用小麦

ゆめちから (2008年)
春よ恋 (1999年)
はるきらり (2007年)
キタノカオリ (2001年)

二条大麦

札育2号 (2014年)

東北 8,517ha

日本用小麦

ナンブコムギ (1951年)

パン・中華用小麦

ゆきちから (2003年)

資料：農林水産省穀物課調べ
(R6年産、作付面積1,000ha以上の品種)

括弧：育成年

赤色：20世紀の品種

麦・大豆ストックセンター整備対策等の成果

- 産地・年産ごとに生産量・品質の変動が大きく、安定供給体制の確立が急務。
- 実需者に対して国産麦・大豆を安定的に供給できる体制を構築することを目的として、豊作時に一定数量を保管し、不作時に供給するためのストックセンターの整備を支援。

◆ これまでに安定供給を目的とした保管庫を18件整備、延べ保管能力は約5.6万トン

| | | | | |
|-----------------------------|------|-----|------|--------|
| 麦・大豆保管施設整備事業（R2補正、R3補正） | 採択件数 | 10件 | 総交付額 | 15.4億円 |
| 国産小麦安定供給強化対策（R4予備費） | 採択件数 | 1件 | 総交付額 | 3.0億円 |
| 麦・大豆ストックセンター整備対策（R4補正、R5補正） | 採択件数 | 6件 | 総交付額 | 14.2億円 |
| 新基本計画実装・農業構造転換支援事業（R6補正） | 採択件数 | 1件 | 総交付額 | 2.2億円 |

<整備事例>

○佐賀県農業協同組合（R4補正）

【構造】定温倉庫：3,657㎡
保管能力：6,042 t
【所在地】佐賀県佐賀市

○東海・大豆コンソーシアム（R4補正）

【構成員】
・有限会社古田商店
・株式会社互明商事
・全国農業協同組合連合会

【構造】定温倉庫：688.5㎡
保管能力：1,000 t
【所在地】愛知県名古屋市

○北海道産麦コンソーシアム（R2補正）

【構成員】
・ドーフン
・江別製粉、横山製粉、木田製粉
・北海道製粉工業協同組合
・北海道農業協同組合中央会
・ホクレン農業協同組合連合会
・北海道農政部

【構造】定温倉庫：3,000㎡
保管能力：6,000t
【所在地】北海道石狩市

○大豆安定出荷コンソーシアム（R3補正）

【構成員】
・北海道グレインカンパニー
・オホーツク十勝豆づくり部会
・片岡商店
・高田商店
・あいち醸造社

【構造】定温倉庫：1,632㎡
保管能力：2,545 t
【所在地】北海道網走郡美幌町

○国産麦安定供給体制強化構築に向けたコンソーシアム（R2補正）

【構成員】
・山本忠信商店
・事業協同組合チホク会

【構造】コルゲート定温サイロ（750t×8基）
保管能力：6,000t
【所在地】北海道音更町



62 経営所得安定対策

令和8年度予算額（所要額）246,235百万円（前年度 254,092百万円）

<対策のポイント>

諸外国との生産条件の格差から生ずる不利を補正する畑作物の直接支払交付金及び農業収入の減少が農業経営に及ぼす影響を緩和する米・畑作物の収入減少影響緩和交付金を担い手（認定農業者、集落営農、認定新規就農者）に対して直接交付します（いずれも規模要件はありません。）。

<政策目標>

米・麦・大豆等の土地利用型農業の経営体の経営の安定

<事業の内容>

1. 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

（所要額）192,413百万円（前年度 202,384百万円）

諸外国との生産条件の格差による不利がある畑作物を生産する農業者に対して、経営安定のための交付金を直接交付します。

2. 米・畑作物の収入減少影響緩和交付金（ナラシ対策）

（所要額）46,777百万円（前年度 44,604百万円）

米、麦、大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいしょの令和7年産収入額の合計が、過去の平均収入である標準的収入額を下回った場合に、その差額の9割を農業者と国が1対3の割合で負担し、補填します。

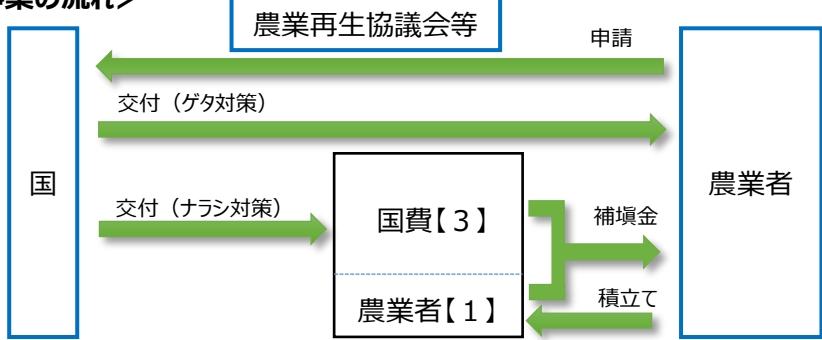
3. 経営所得安定対策等推進事業等

7,046百万円（前年度 7,104百万円）

農業再生協議会が行う水田収益力強化ビジョン等の作成・周知や経営所得安定対策等の運営に必要な経費を助成します。

<事業の流れ>

営農計画書・交付申請書等の取りまとめ



<事業イメージ>

畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

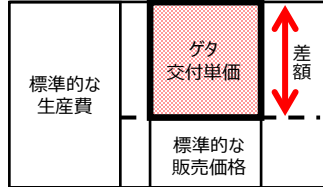
〔交付単価〕（令和8年産から適用）数量払の交付単価は品質区分に応じて設定

| 対象作物 | 平均交付単価 | | 対象作物 | 平均交付単価 | |
|------|--------------|--------------|-------------|--------------|--------------|
| | 課税事業者向け | 免税事業者向け | | 課税事業者向け | 免税事業者向け |
| 小麦 | 5,590円/60kg | 6,000円/60kg | てん菜 | 5,090円/1t | 5,380円/1t |
| 二条大麦 | 4,900円/50kg | 5,220円/50kg | でん粉原料用ばれいしょ | 14,090円/1t | 15,030円/1t |
| 六条大麦 | 5,710円/50kg | 6,110円/50kg | そば | 15,930円/45kg | 16,730円/45kg |
| はだか麦 | 8,330円/60kg | 8,850円/60kg | なたね | 6,410円/60kg | 6,820円/60kg |
| 大豆 | 10,340円/60kg | 10,910円/60kg | | | |

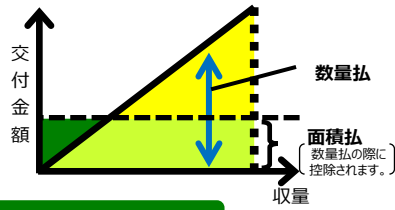
〔面積払〕 当年産の作付面積に基づき数量払の先払いとして交付

2万円/10a（そばについては、1.3万円/10a）

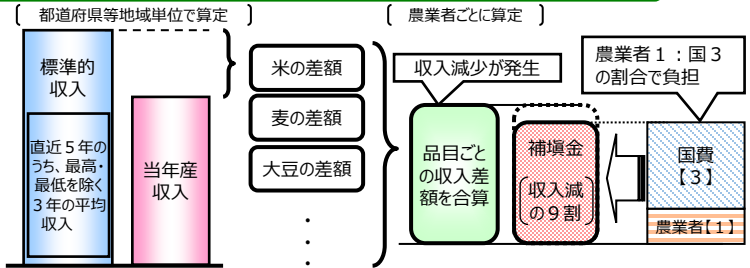
<交付単価のイメージ>



<数量払と面積払との関係>



米・畑作物の収入減少影響緩和交付金（ナラシ対策）



〔お問い合わせ先〕 農産局穀物課経営安定対策室（03-3502-5601）

○ 水田活用の直接支払交付金等

令和8年度予算概算決定額 275,200百万円（前年度 287,000百万円）

<対策のポイント>

食料自給率・自給力の向上に資する**麦、大豆、米粉用米等の戦略作物の本作化**とともに、地域の特色をいかした**魅力的な産地づくり、産地と実需者との連携に基づいた生産性向上等の取組、畑地化による高収益作物等の定着等**を支援します。

<政策目標>

- 麦・大豆の作付面積を拡大（麦29.4万ha、大豆16万ha [令和5年度] → 麦32.8万ha、大豆17万ha [令和12年度まで]）
- 米（加工用米・新規需要米を含む）の増産（米の生産量791万t [令和5年度] → 818万t [令和12年度まで]）
- 実需者との結びつきの下で、需要に応じた生産を行う産地の育成・強化

<事業の内容>

1. 戦略作物助成

水田を活用して、**麦、大豆、飼料作物、加工用米、WCS用稲、飼料用米、米粉用米**を生産する農業者を支援します。

2. 産地交付金

「水田収益力強化ビジョン」に基づく、地域の特色をいかした**魅力的な産地づくりに向けた取組**を支援します。

3. 都道府県連携型助成

都道府県が**転換作物を生産する農業者を独自に支援**する場合に、農業者ごとの前年度からの転換拡大面積に応じて、都道府県の支援単価と同額（上限：0.5万円/10a）で**国が追加的に支援**します。

4. 畑地化促進助成

水田を畑として利用し、**高収益作物やその他の畑作物の定着等**を図る取組等を支援します。

5. コメ新市場開拓等促進事業 14,000百万円（前年度 11,000百万円）

産地と実需者との連携の下、酒造好適米・新市場開拓用米等の生産性向上等に取り組む農業者を支援します。*7

*7 予算の範囲内で、助成対象となる地域農業再生協議会を決定

<事業イメージ>

戦略作物助成

| 対象作物 | 交付単価 |
|-----------|--------------------------|
| 麦、大豆、飼料作物 | 3.5万円/10a*1 |
| 加工用米 | 2万円/10a |
| WCS用稲 | 8万円/10a |
| 飼料用米、米粉用米 | 収量に応じ、5.5万円~10.5万円/10a*2 |

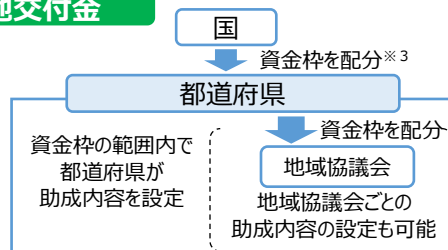
*1：多年生牧草について、収穫のみを行う年は1万円/10a

*2：飼料用米の一般品種について、標準単価6.5万円/10a（5.5~7.5万円/10a）

<交付対象水田>

- ・ たん水設備（畦畔等）や用水路等を有しない農地は交付対象外。
- ・ 5年水張りルールについては、令和7年・8年の対応として、水稲を作付け可能な田について、連作障害を回避する取組を行った場合、水張りしなくても交付対象とする。

産地交付金



○ 当年産の以下の取組に応じて資金枠を追加配分

| 取組内容 | 配分単価 |
|--|---------|
| そば・なたね、新市場開拓用米、地力増進作物の作付け（基幹作のみ） | 2万円/10a |
| 新市場開拓用米の複数年契約*4（3年以上の新規契約を対象に令和8年度に配分） | 1万円/10a |

*3：作付転換の実績や計画等に基づき配分

*4：コメ新市場開拓等促進事業で採択された者が対象

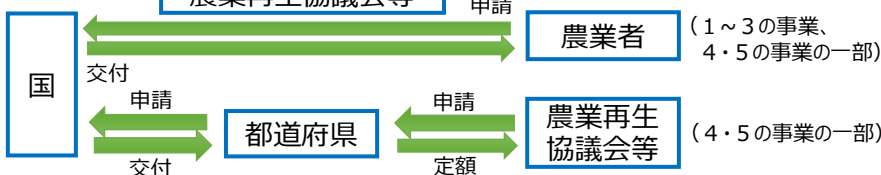
畑地化促進助成（令和7年度補正予算と併せて実施）

- ① 畑地化支援*5：7万円/10a
- ② 定着促進支援*5（①とセット）：2万円（3万円*6）/10a×5年間 ※5：対象作物は麦、大豆、飼料作物（牧草等）、子実用とうもろこし、または10万円（15万円*6）/10a（一括） ※6：加工業務用野菜等の場合
- ③ 産地づくり体制構築等支援
- ④ 子実用とうもろこし支援（1万円/10a）

<事業の流れ>

営農計画書・交付申請書等の取りまとめ

農業再生協議会等



7 畑地化促進事業

令和7年度補正予算額 19,457百万円

<対策のポイント>

水田を畑として利用し、畑作物の本作化に取り組む農業者に対して、畑利用への円滑な移行を促し、畑作物の需要に応じた生産を促進することを目的として、生産が安定するまでの一定期間、継続的に支援（伴走支援）を行うとともに、畑作物の産地づくりに取り組む地域を対象に、関係者間での調整や畑地化に伴う費用負担（土地改良区の地区除外決済金等）等に要する経費を支援します。

<事業目標>

麦・大豆等の作付面積を拡大（麦29.4万ha、大豆16万ha〔令和5年度まで〕→麦32.8万ha、大豆17万ha〔令和12年度まで〕）

<事業の内容>

<事業イメージ>

1. 畑地化支援

水田を畑として利用し、畑作物（麦、大豆、飼料作物（牧草等）、子実用とうもろこし、そば、野菜、果樹、花き等）の本作化に取り組む農業者を支援します。

2. 定着促進支援

水田を畑として利用して、畑作物の定着等に取り組む農業者を5年間、継続的に支援します。

3. 産地づくり体制構築等支援

畑作物の産地づくりに取り組む地域を対象に、関係者間の調整に要する経費や土地改良区の地区除外決済金等を支援します。

畑地化支援・定着促進支援

| 対象作物 | 1 畑地化支援 (令和8年度単価) | 2 定着促進支援 (令和8年度単価) |
|--|----------------------|--|
| 畑作物 (麦、大豆、飼料作物 (牧草等)、子実用とうもろこし、そば、野菜、果樹、花き等) | 7万円/10a | ・ 2.0 (3.0※) 万円/10a × 5年間 または ・ 10.0 (15.0※) 万円/10a (一括) (※ 加工・業務用野菜等の場合) |

産地づくり体制構築等支援

① 産地づくりに向けた体制構築支援

畑作物の産地づくりに取り組む地域を対象に、団地化やブロックローテーションの体制構築等のための調整（現地確認や打合せなど※）に要する経費を支援（定額（1協議会当たり上限300万円））

※ 借地の場合には、賃借人（耕作者）が土地所有者の理解を得ることが必要。地域再生協議会において、土地所有者を含めた地域の関係者に対する理解の醸成等の取組を進めていくことが重要。

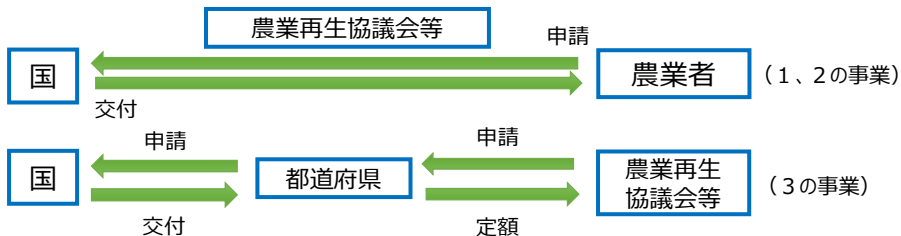
② 土地改良区決済金等支援

令和8年度に畑地化に取り組むことを約束した農業者に対して、畑地化に伴い土地改良区に支払う必要が生じた場合に、土地改良区の地区除外決済金等を支援（定額（上限25万円/10a））



<事業の流れ>

営農計画書・交付申請書等の取りまとめ



留意事項：農業者単位等で、取組面積等の評価基準（ポイント）に基づき、予算の範囲内で採択。

[お問い合わせ先] 農産局企画課 (03-3597-0191)

8 畑作物産地形成促進事業

令和7年度補正予算額 13,500百万円

<対策のポイント>

輸入依存度の高い国産需要のある作物の生産を促し、食料安全保障に資する品目の産地形成を図るため、**実需者との結びつきの下で、麦・大豆、高収益作物、子実用とうもろこしの生産性向上等に取り組む農業者を支援**します。

<事業目標>

- 実需者との結びつきの下で、ニーズに応じた畑作物の生産を行う産地の育成・強化
- 麦・大豆等の作付面積を拡大（麦29.4万ha、大豆16万ha [令和5年度] → 麦32.8万ha、大豆17万ha [令和12年度まで]）

<事業の内容>

実需者ニーズに応えるための生産性向上等の取組支援 13,500百万円

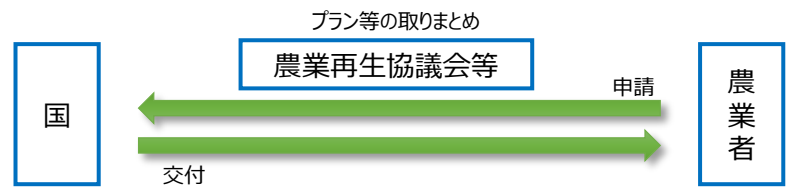
産地・実需協働プランに参画する農業者が、実需者ニーズに対応するための**畑作物の導入・定着に向けた取組や生産性向上等の技術導入**を行う場合に、その取組面積に応じて支援します。

- ① **対象作物**：令和8年産の麦、大豆、高収益作物（加工・業務用野菜等）、子実用とうもろこし
- ② **交付単価**：4万円/10a
- ③ **採択基準**：地域協議会単位で、取組面積等の評価基準（ポイント）に基づき、**予算の範囲内で採択**

<留意事項>

- ※1 令和8年産の基幹作が対象です。
- ※2 農業者等が実需者と販売契約を締結する又はその計画を有していることが必要です。
- ※3 麦、大豆、高収益作物については、加工用等の用途指定があります。
- ※4 本支援の対象となった面積は、令和8年度水田活用の直接支払交付金の戦略作物助成（麦、大豆、飼料作物（子実用とうもろこし））の対象面積から除きます。
- ※5 予算額のうち、40百万円を農業再生協議会等の事務費として計上しています。

<事業の流れ>



<事業イメージ>

【産地・実需協働プラン】
 ✓ 産地と実需者が連携し、麦・大豆、高収益作物、子実用とうもろこしについて、需要拡大のために必要な生産対策や需要の創出・拡大に係る取組内容、目標等を盛り込んだ計画

畑作物の導入・定着に向けた取組



【例】 排水対策（暗渠）



土層改良（客土）



傾斜均平

実需者ニーズに応えるための生産性向上等の技術導入



【例】 スマート農業機器の活用



大豆300A技術
（不耕起播種栽培など）



土壌診断に基づく土づくり

【お問い合わせ先】 農産局企画課 (03-3597-0191)

＜対策のポイント＞

麦、大豆等の戦略作物の収量・品質・価格の安定化に向けた取組や大豆極多収品種の奨励品種決定調査等に対して支援をします。

＜事業目標＞

- 麦、大豆、飼料用米等の単収向上（小麦537kg/10a、大豆223kg/10a、飼料用米720kg/10a、米粉用米616kg/10a [令和12年度まで]）
- 需要が伸びている用途（輸出用米、加工用米等）への米の安定供給による経営の安定

＜事業の内容＞

1. 戦略作物への作付体系転換支援事業

生産者、試験研究機関、行政・普及など地域の関係者が一体となって行う生産性の向上に資する技術等の実証等を支援します。

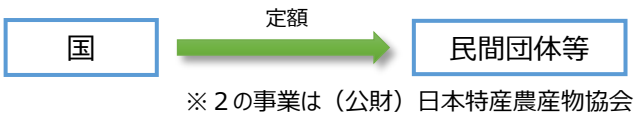
[取組例]

- ・ 麦、大豆等における排水対策や雑草防除などの生産技術の導入
- ・ 生産コストを低減する飼料用米等の多収品種や直播栽培の導入
- ・ 大豆極多収品種の奨励品種決定調査

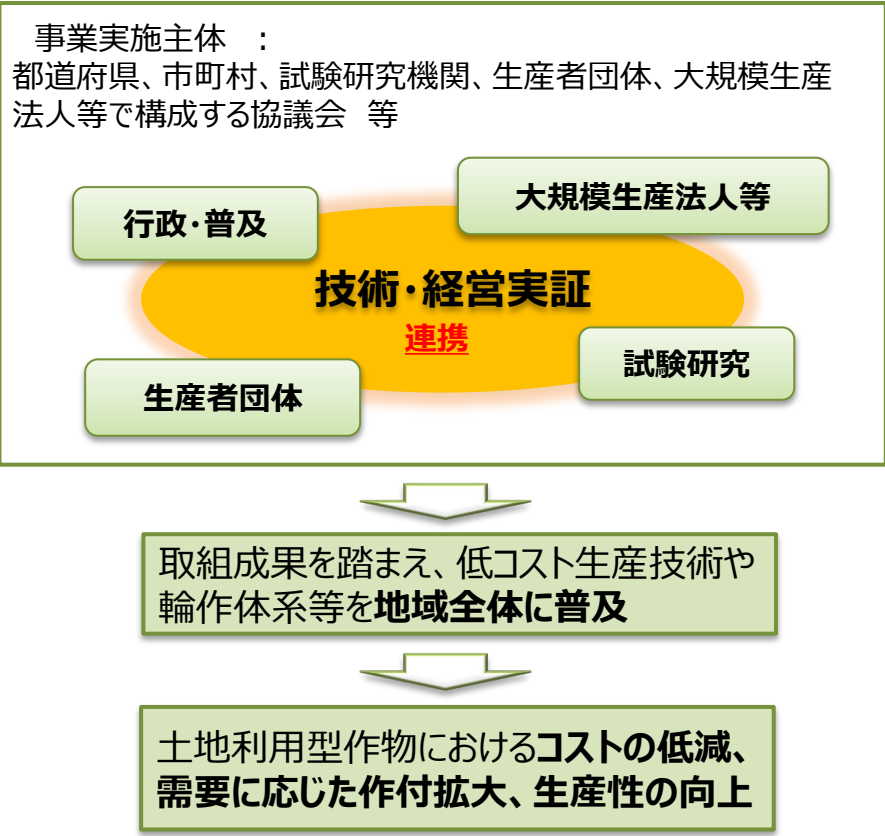
2. 国産大豆の適正取引支援事業

国産大豆の需要拡大の基盤として、国産大豆の透明かつ公正な取引価格の形成に向けた全国段階の入札の実施に対し支援します。

＜事業の流れ＞



＜事業イメージ＞



米穀等安定生産・需要開拓総合対策事業のうち 持続的種子生産総合対策事業

令和8年度予算額 150百万円（前年度 -）
（令和7年度補正予算額 184百万円）

<対策のポイント>

稲、麦類及び大豆の種子生産は、熟練者の手作業を前提とした労働集約型の作業体系であり、担い手の減少と高齢化の進展により種子生産体制が脆弱化しつつある状況であるため、**持続的な種子生産や多様なニーズに対応した生産・供給体制の構築に必要な取組を支援**します。

<事業目標>

稲、麦類、大豆の国産種子需要に対する供給率（100%維持〔令和12年度まで〕）

<事業の内容>

<事業イメージ>

1. 種子生産への新規参入の促進支援 20百万円
新たに種子生産に取り組む農業者に対して支援します。

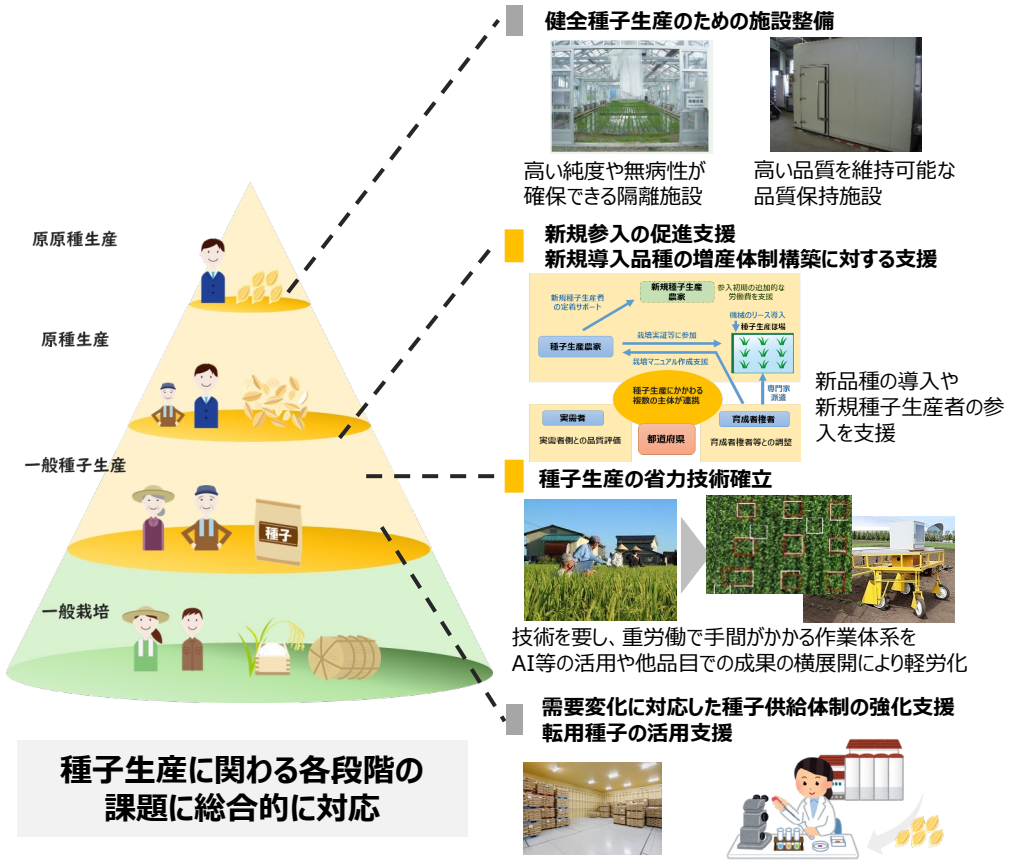
2. 新規導入品種の増産体制構築に対する支援 80百万円
多様なニーズに対応した新規導入品種への転換や新規種子生産者の育成に必要な種子生産・供給体制を構築するための取組や機械導入を支援します。

3. 種子生産の省力技術確立 50百万円
高度技術等を要する種子生産の省力化に資する技術の実装を支援します。

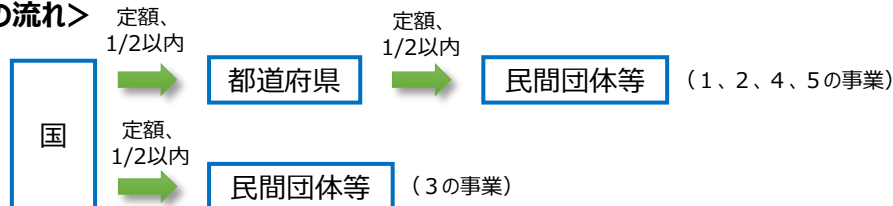
（関連事業）気候変動対応等高需要種子・確保緊急対策事業
【令和7年度補正予算額】184百万円

4. 健全種子生産のための施設整備 50百万円
優良品種の普及に向け、原原種等の品質向上に必要な施設整備を支援します。

5. 需要変化に対応した種子供給体制の強化支援 134百万円
高温耐性品種など需要の高い品種の急激な需要増加に対応するため、種子の増産や備蓄期間の延長に係る実証にかかる取組を支援します。
また、生産者の需要が種子の在庫を超過した場合に、食用として生産されたものを種子として活用するために必要な取組にかかる経費を支援します。



<事業の流れ>



【お問い合わせ先】 農産局穀物課 (03-3502-5965)

<対策のポイント>

近年の気候変動等の影響により需要が高まっている高温耐性品種などの優良品種を普及する際に課題となっている原原種等の品質向上に必要な施設整備を支援するとともに、当該品種の需要に対応するために種子供給体制を強化する取組等を支援します。

<事業目標>

高温耐性品種等の作付割合の倍増（R6比）

<事業の内容>

1. 健全種子生産のための施設整備 50百万円

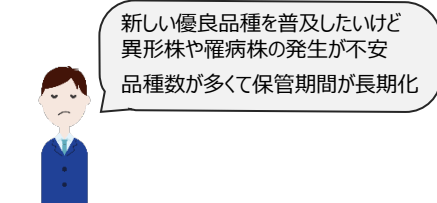
優良品種の普及に向け、原原種等の品質向上に必要な施設整備を支援します。

2. 急激な需要増に対する種もみ等確保に対する支援 134百万円

- ① 需要の高い種子の増産・備蓄実証支援
高温耐性品種など**需要の高い品種の急激な需要増加**に対応するため、**種子の増産や備蓄期間の延長に係る実証のための経費を支援**します。
- ② 需要の高い品種における転用種子の活用支援
生産者の需要が種子の在庫を超過した場合に、食用として生産されたものを**種子として活用**するために**必要な取組にかかる経費を支援**します。

<事業イメージ>

健全種子生産のための施設整備



需要の高い新品種の導入・普及にあたり
・多品種との交雑、病害の発生
・保管した原原種等の品質の維持が課題

高温耐性品種等の優良品種の普及を促進する
原原種等の品質向上につながる施設整備を支援



高い純度や無病性が確保できる隔離施設

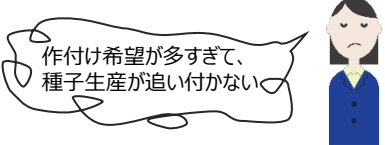


高い品質を維持可能な品質保持施設

急激な需要増に対する種もみ等確保



最近すごく暑いから暑さに強い品種を作付けて品質のいいお米を作りたい



計画的な種子生産を行っており、短期間での急激な需要増加への対応が困難

高温耐性品種等の種子生産体制が整うまでの**農業者の需要に対応した種子の確保**を支援



需要増加に対応した種子備蓄や種子転用の取組を支援

<事業の流れ>

